吉川市地域福祉計画
アンケート調査結果について

《市民アンケート》

令和8年11月
吉川市

目次

1.調査の概要
(1)調査の目的
(2)調査項目
(3)調査期間
(4)調査対象
(5)調査方法
(6)回収結果
(7)集計にあたって

2.調査結果
（１）本人について
- 性別
- 年齢
- 心身の健康状態
- 家族構成
- 居住形態
- 住まいの地域

(2)地域とのかかわりについて
- 近所付き合いの程度
- 近所付き合いがない理由
- 近所付き合いに対する考え方
- 地域での活動内容、活動頻度
- 地域の活動に参加なしの理由
- 手助けしていること、今後手助けできること
- 手助けすることが難しいこと
- 手助けしてほしいこと
- 助けを求めるときに主に頼りにする人や機関

(3)こころの健康について
- 相談等へのためらい
- ためらいを感じる理由
- 心理的ストレスの状況（Ｋ６分析）
- 睡眠状況について
- ひきこもりの状態について
- 孤独・孤立感の有無
- 孤独・孤立感を感じる要因
- 孤独、孤立からの脱却の意思

目次

(4)地域福祉への認識・関心
- 地域福祉に関する制度や機関等の認識度、関心度

(5)情報の入手について
- 情報の入手手段について

(6)今後の地域福祉について（自由記述）
- 地域活動・つながり
- 孤独・孤立対策
- 助け合い・支え合い
- 高齢者支援
- こども・子育て支援
- 障がい者支援
- 健康づくり・相談支援
- 情報発信・情報提供
- 交通・移動支援
- 行政・地域福祉全般への要望
- その他

(7)クロス集計
- 性別×年齢
- K6分析×相談へのためらい
- 年齢×情報の入手手段

調査概要

（1）調査の目的

本調査は、第５次吉川市地域福祉計画の策定にあたり市民の皆様の地域福祉への関心や考え、意向などを把握することを目的に実施しました。

（2）調査項目

- 本人について
- 地域とのかかわりについて
- こころの健康について
- 地域福祉への認識・関心
- 情報の入手について
- 今後の地域福祉について

（3）調査期間

- 令和7年10月6日から令和7年11月7日の1か月

（4）調査対象

- 令和7年9月現在で吉川市住民基本台帳に登録されている市内在住の18歳以上の男女1,500人（無作為抽出）

（5）調査方法

- 無作為抽出した1,500人へアンケート用紙を発送。アンケート用紙の返送もしくはオンラインにて実施。

（6）回収結果

- 650件（郵送428件、オンライン222件）回答率：43.3%

（7）集計にあたって

- アンケート結果の比率は、百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%を前後する場合があります。
- 複数回答設問は、回答者が複数の選択肢を選択できるため、各選択肢の割合の合計は100%になりません。

（1）本人について

問１－１　性別

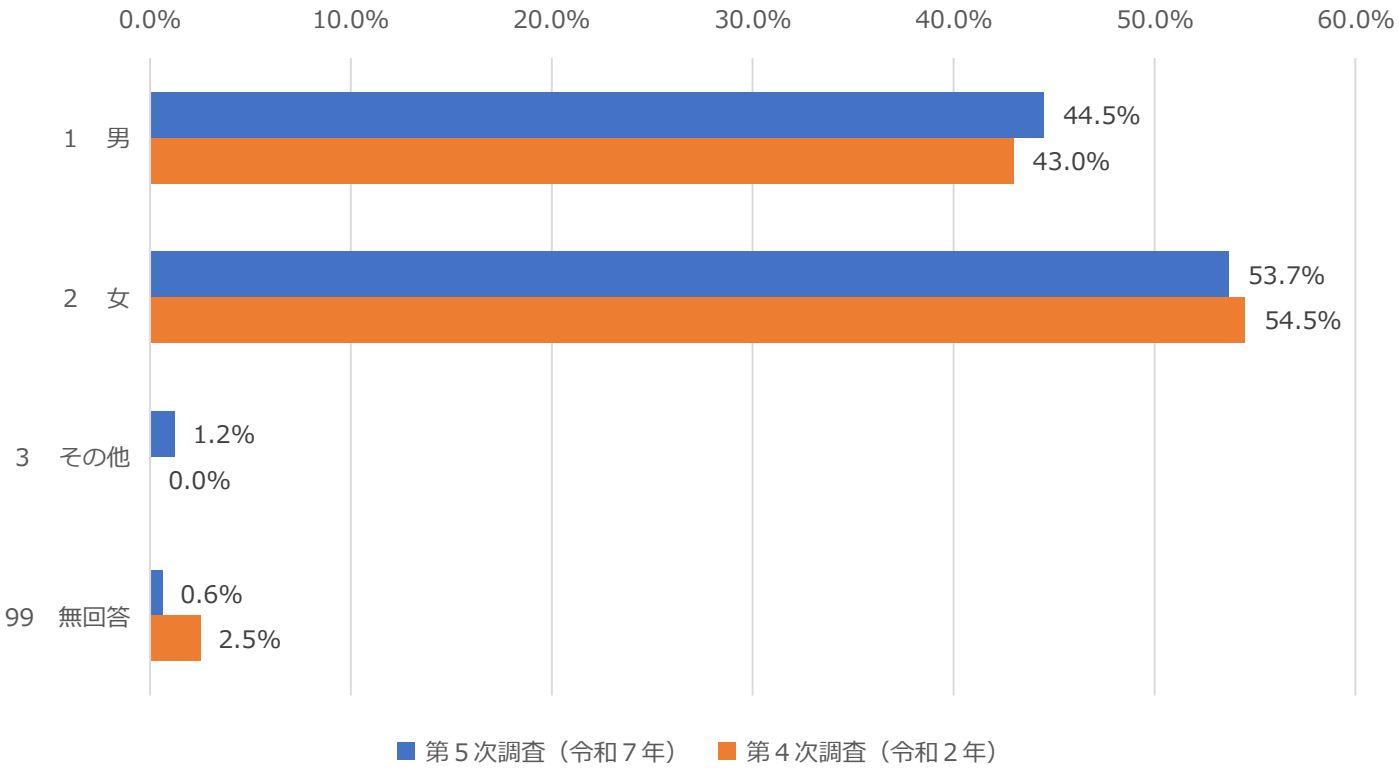
考察

　前回の調査と比較すると、男女の割合に大きな変化はみられず、回答者の属性は概ね同様の傾向となっています。なお、今回の調査では新たに「その他」の選択肢を設けたことにより、無回答の割合が減少しています。

単純集計結果①

	第5次 (n=650)		第4次 (n=647)		増減	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　男	289	44.5%	278	43.0%	+11	+1.5%
2　女	349	53.7%	353	54.5%	▲4	▲0.8%
3 その他（どちらでもない、わからない、答えたくない等）	8	1.2%	-	-	-	-
99　無回答	4	0.6%	16	2.5%	▲12	▲1.9%

単純集計結果②



問１－２　年齢

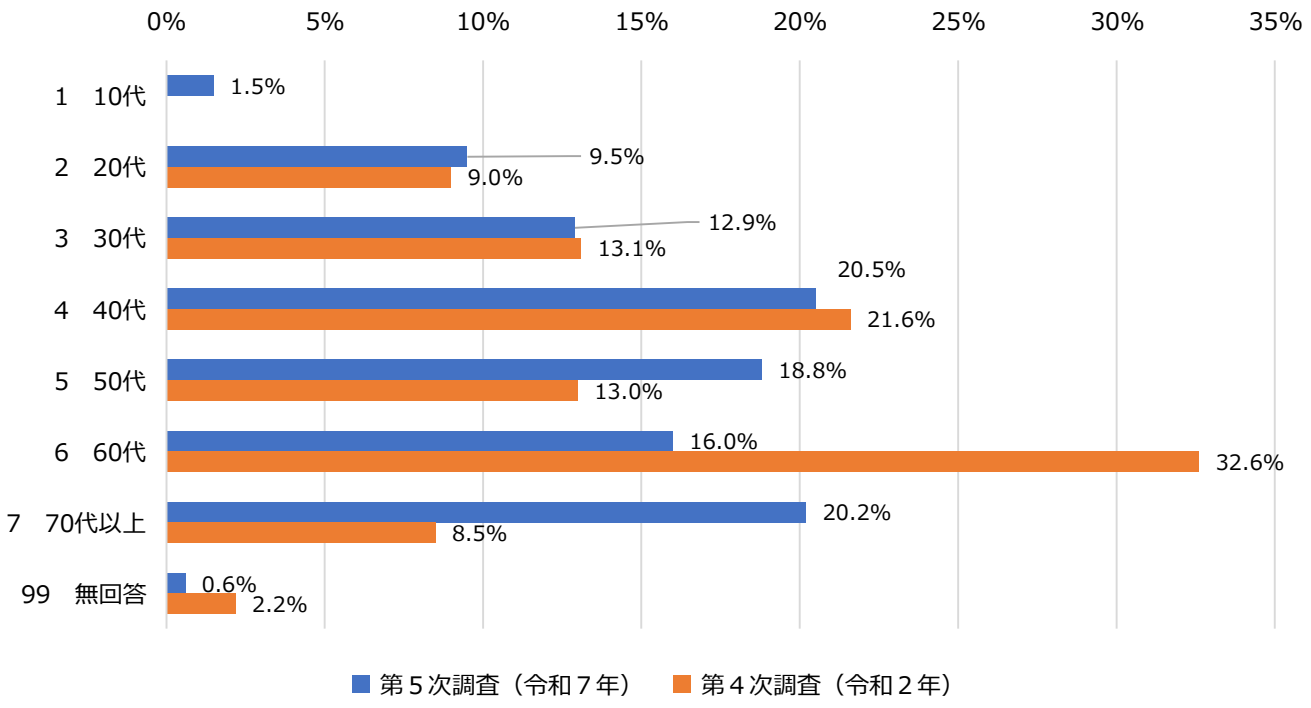
考察

今回の調査では、40代以上の回答者が依然として多いものの、60代の割合が前回調査より減少し、50代及び70代以上の回答者が増加しています。また、20代から40代の回答者数は前回調査と概ね同程度で推移しており、幅広い世代から回答を得られています。

単純集計結果①

		第5次 (n=650)		第4次 (n=647)		増減	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1	10代	10	1.5%	―	―	―	―
2	20代	62	9.5%	58	9.0%	+4	+0.5%
3	30代	84	12.9%	85	13.1%	▲1	▲0.2%
4	40代	133	20.5%	140	21.6%	▲7	▲1.1%
5	50代	122	18.8%	84	13.0%	+38	+5.8%
6	60代	104	16.0%	211	32.6%	▲107	▲16.6%
7	70代以上	131	20.2%	55	8.5%	+76	+11.7%
99	無回答	4	0.6%	14	2.2%	▲10	▲1.6%

単純集計結果②



問１－３　あなたの心身（こころや体）の健康状態についてお答えください。（あてはまる番号に○印を１つ）

新規

考察

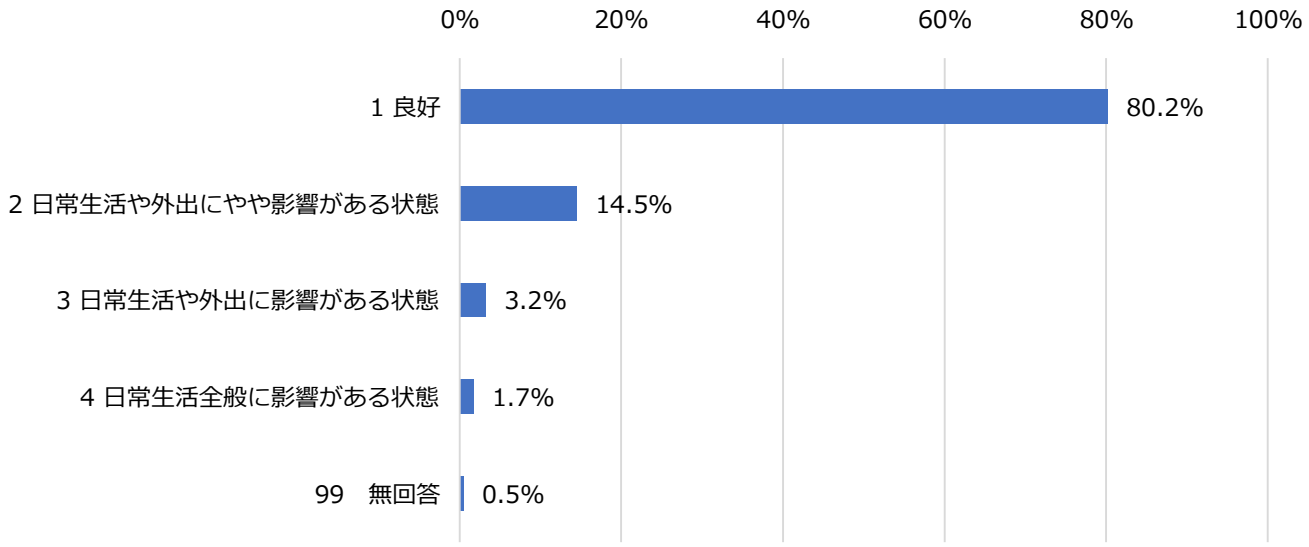
８割の人が「良好」と回答しており、多くの市民が心身ともに健康な状態で生活していることがうかがえます。一方で、約2割の人が日常生活や外出に何らかの影響があると回答しており、健康づくりや生活支援の充実が引き続き求められます。

単純集計結果①

n=650

	人数	構成比
1　良好	521	80.2%
2　日常生活や外出にやや影響がある状態	94	14.5%
3　日常生活や外出に影響がある状態	21	3.2%
4　日常生活全般に影響がある状態	11	1.7%
99　無回答	3	0.5%

単純集計結果②



問１－４　家族構成

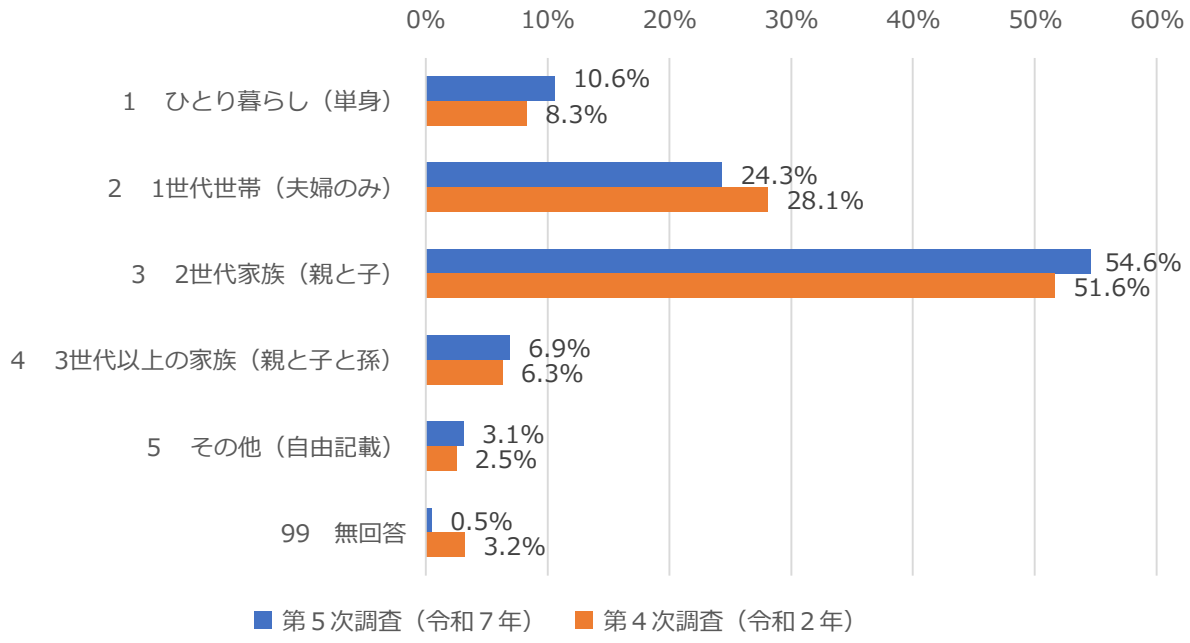
考察

前回の調査と同様に「2世代家族（親と子）」が最も多く、地域の中心的な世帯像であることがうかがえます。一方で、「1世代世帯（夫婦のみ）」が減少し、「ひとり暮らし（単身）」が増加していることから、家族形態の多様化が進んでいることが読み取れます。

単純集計結果①

	第5次 (n=650)		第4次 (n=647)		増減	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　ひとり暮らし（単身）	69	10.6%	54	8.3%	+15	+2.3%
2　１世代世帯（夫婦のみ）	158	24.3%	182	28.1%	▲24	▲3.8%
3　2世代家族（親と子）	355	54.6%	333	51.6%	+22	+3.0%
4　3世代以上の家族（親と子と孫）	45	6.9%	41	6.3%	+4	+0.6%
5　その他（自由記載）	20	3.1%	16	2.5%	+4	+0.6%
99　無回答	3	0.5%	21	3.2%	▲18	▲2.7%

単純集計結果②



問１－５　居住形態

考察

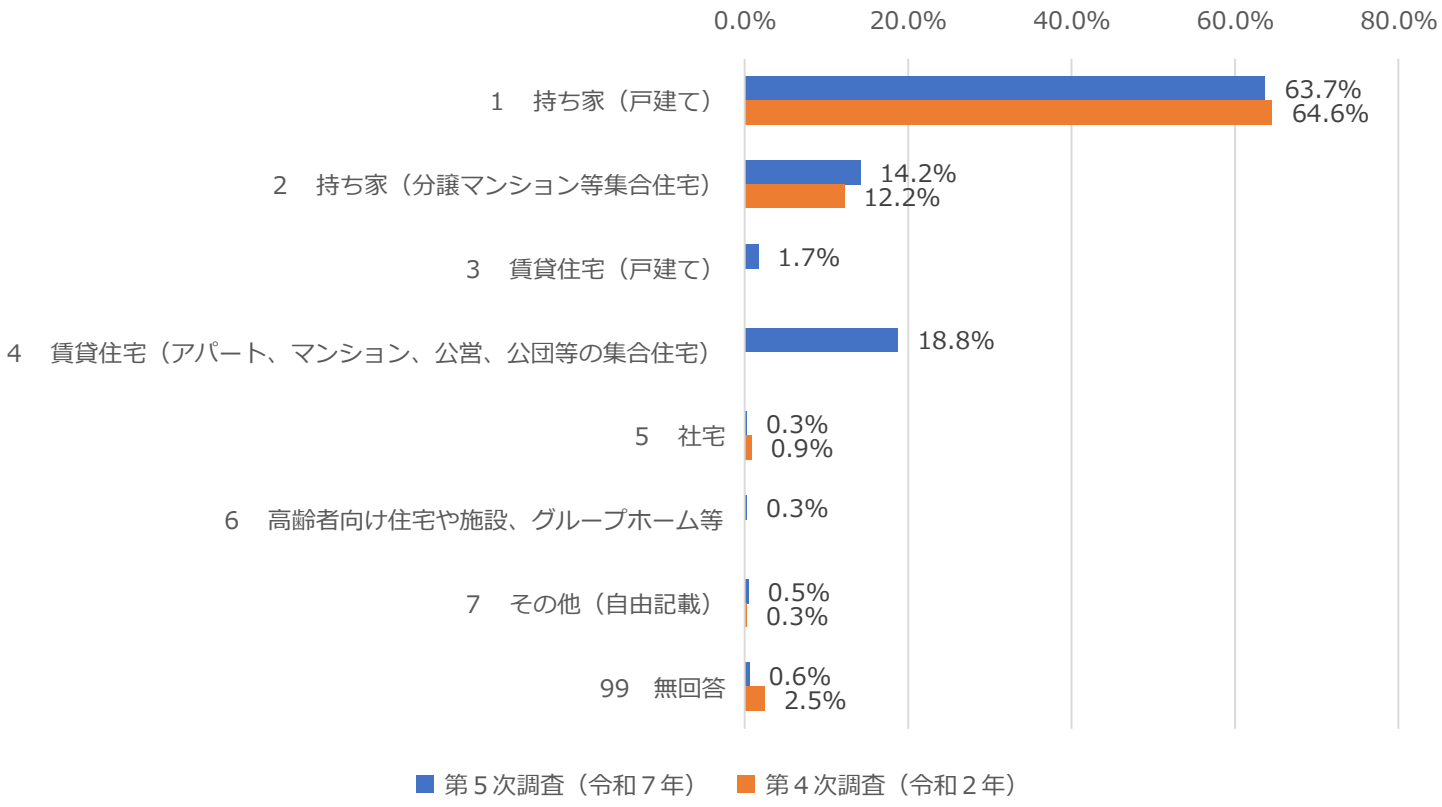
前回の調査と同様に、持ち家（戸建て）が引き続き最も多く、前回調査とほぼ同水準で推移しています。持ち家の集合住宅が増加しており、住宅形態の内訳にやや変化がみられます。

単純集計結果①

	第5次 (n=650)		第4次 (n=647)		増減	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 持ち家（戸建て）	414	63.7%	418	64.6%	▲4	▲0.9%
2 持ち家（分譲マンション等集合住宅）	92	14.2%	79	12.2%	+13	+2.0%
3 賃貸住宅（戸建て）	11	1.7%	126	19.5%	―	―
4 賃貸住宅（アパート、マンション、公営、公団等の集合住宅）	122	18.8%				
5 社宅	2	0.3%	6	0.9%	▲4	▲0.6%
6 高齢者向け住宅や施設、グループホーム等	2	0.3%	―	―	―	―
7 その他（自由記載）	3	0.5%	2	0.3%	+1	+0.2%
99　無回答	4	0.6%	16	2.5%	▲12	▲1.9%

※単純比較できない項目を含むため、比較は参考値

単純集計結果②



問１－６　住まいの地域

考察

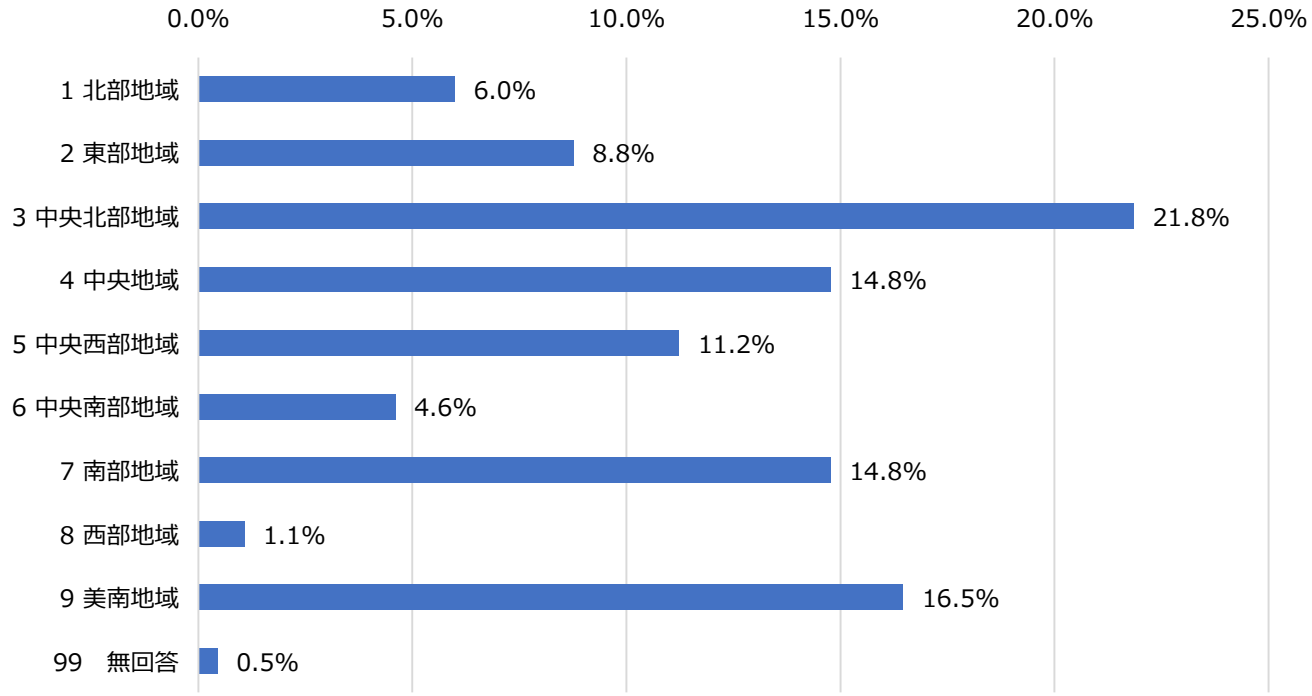
中央北部地域が最も多く、次いで美南地域、中央地域及び南部地域となっており、市内各地域から幅広く回答が寄せられました。

単純集計結果①

n=650

	人数	構成比
1 北部地域	39	6.0%
2 東部地域	57	8.8%
3 中央北部地域	142	21.8%
4 中央地域	96	14.8%
5 中央西部地域	73	11.2%
6 中央南部地域	30	4.6%
7 南部地域	96	14.8%
8 西部地域	7	1.1%
9 美南地域	107	16.5%
99　無回答	3	0.5%

単純集計結果②



（２）地域とのかかわりについて

問２－１　近所の人とのお付き合いの程度についてお答えください。（あてはまる番号に○印を１つ）

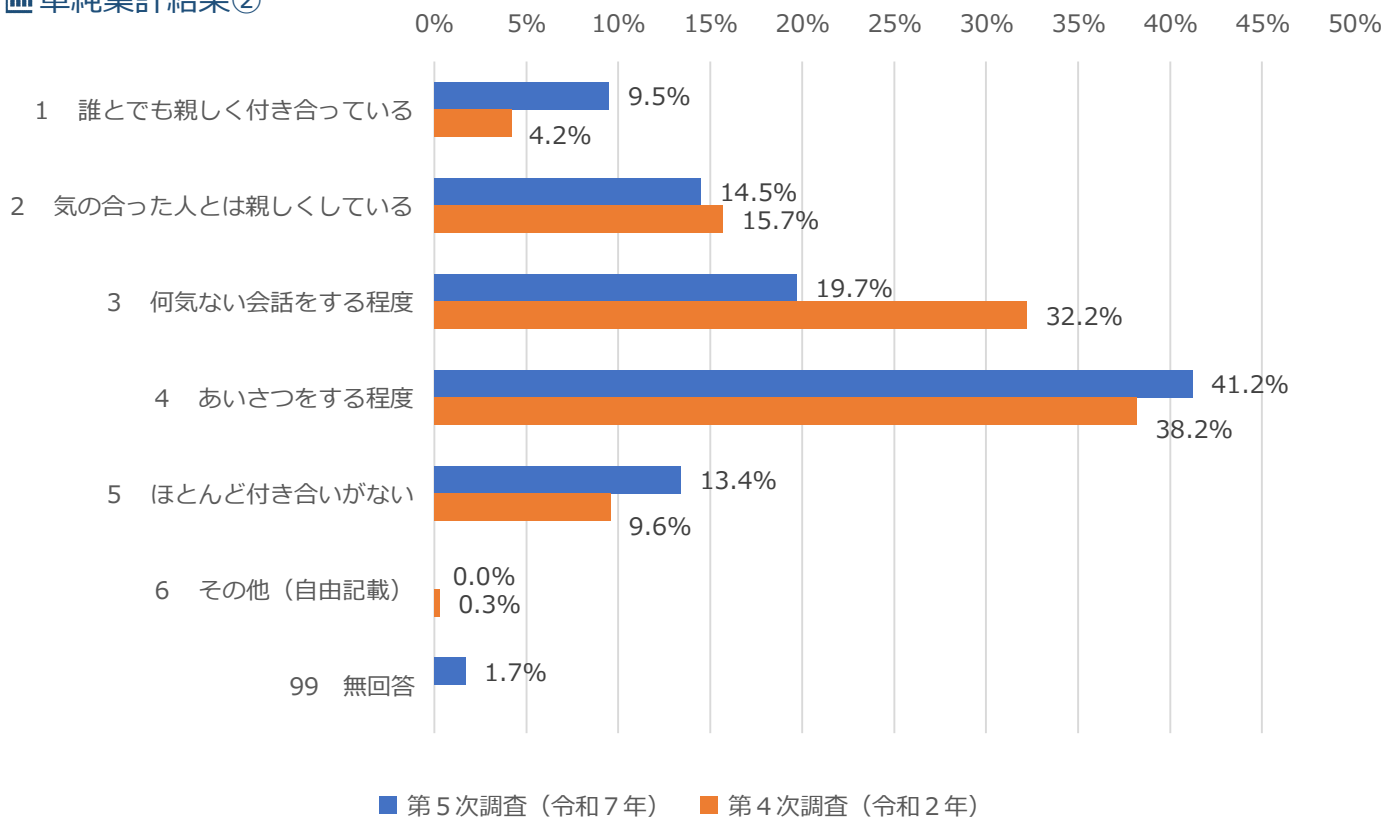
考察

前回の調査と同様に、「あいさつをする程度」と回答した人が最も多く、近所づきあいは比較的緩やかな関係が中心となっています。一方で、「誰とでも親しく付き合っている」と回答した人が増加した反面、「ほとんど付き合いがない」と回答した人も増加しており、地域住民同士のつながり方に多様化が見られます。

単純集計結果①

	第5次 (n=650)		第4次 (n=650)		増減	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　誰とでも親しく付き合っている	62	9.5%	27	4.2%	+35	+5.3%
2　気の合った人とは親しくしている	94	14.5%	102	15.7%	▲8	▲1.3%
3　何気ない会話をする程度	128	19.7%	209	32.2%	▲81	▲12.6%
4　あいさつをする程度	268	41.2%	248	38.2%	+20	+2.9%
5　ほとんど付き合いがない	87	13.4%	62	9.5%	+25	+3.8%
6　その他（自由記載）	0	0.0%	2	0.3%	▲2	▲0.3%
99　無回答	11	1.7%	―	―	+11	+1.7%

単純集計結果②



問２－１関連　近所付き合いがほとんど付き合いがない理由をお答えください。（あてはまる番号すべてに○印）　新規

考察

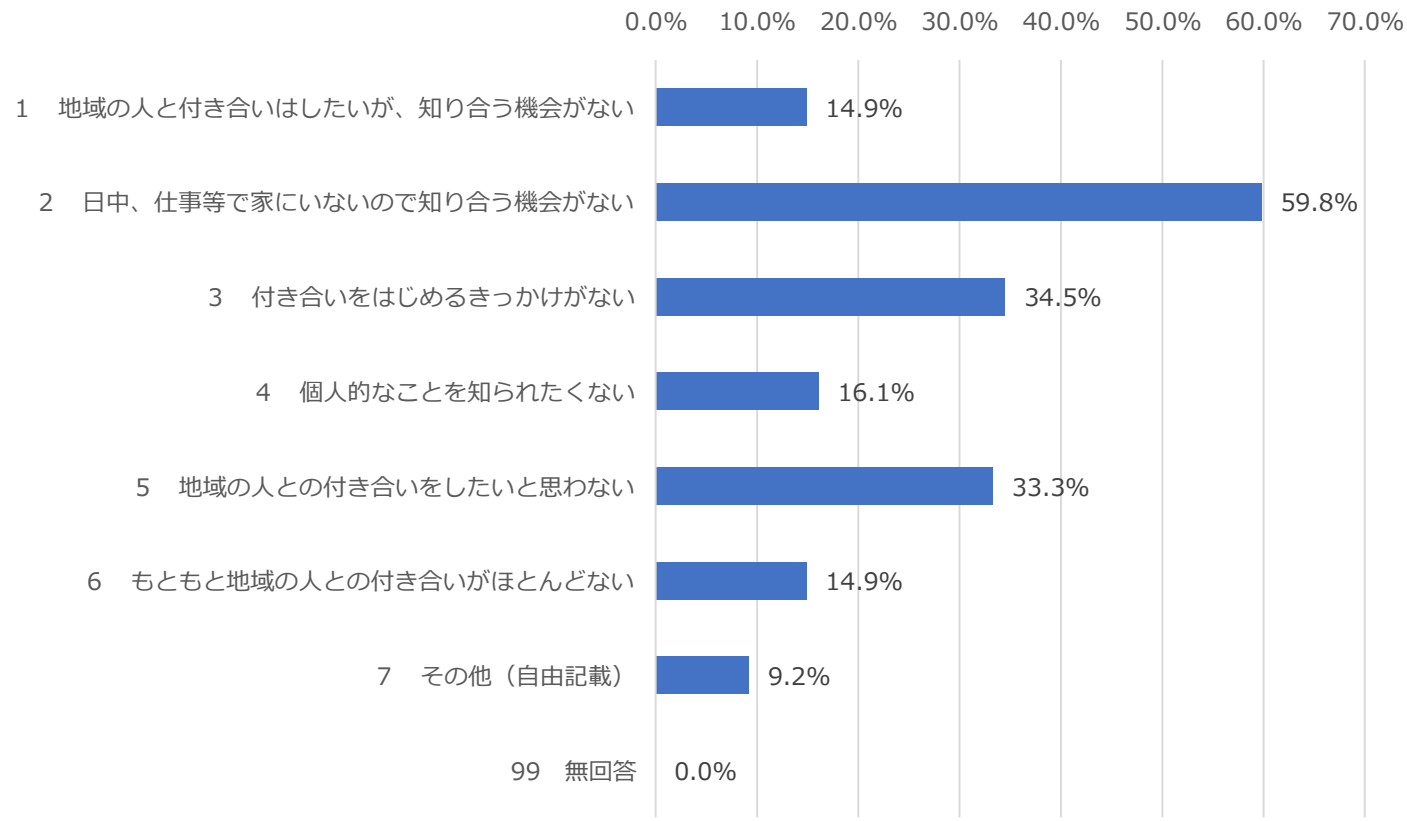
「日中、仕事等で家にいないので知り合う機会がない」と回答した人が最も多く、時間的・環境的な制約により交流機会が不足している状況がうかがえます。一方で、「付き合いをはじめるきっかけがない」や「地域の人との付き合いをしたいと思わない」と回答した人も一定数おり、交流機会の創出とともに参加意欲を高める働きかけも重要と考えられます。

単純集計結果①

n=87

	人数	構成比
1　地域の人との付き合いはしたいが、知り合う機会がない	13	14.9%
2　日中、仕事等で家にいないので知り合う機会がない	52	59.8%
3　付き合いをはじめるきっかけがない	30	34.5%
4　個人的なことを知られたくない	14	16.1%
5　地域の人との付き合いをしたいと思わない	29	33.3%
6　もともと地域の人との付き合いがほとんどない	13	14.9%
7　その他（自由記載）	8	9.2%
99　無回答	0	0.0%

単純集計結果②



問２－２　近所の人とのお付き合いに対する考え方についてお答えください。（あてはまる番号に○印を１つ）

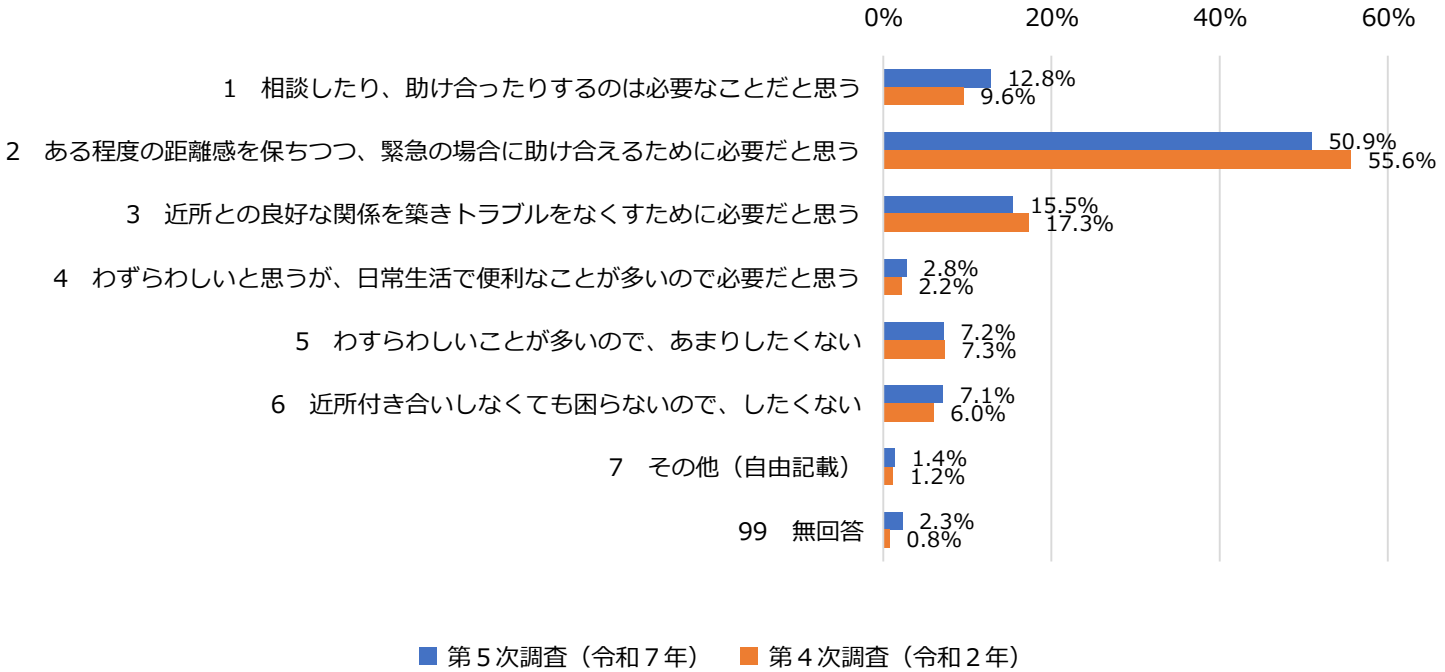
考察

前回の調査と同様に「ある程度の距離感を保ちつつ、緊急時には助け合える関係が必要」と考える人が最も多いですが、割合は前回の調査より減少しております。また、「相談したり、助け合ったりするのは必要」と回答した人が増加しており、地域における支え合いへの意識が高まる一方で、「近所付き合いをしなくても困らないので、したくない」と回答した人も増加しており、住民の意識の多様化がうかがえます。

単純集計結果①

	第5次 (n=650)		第4次 (n=647)		増減	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　相談したり、助け合ったりするのは必要なことだと思う	83	12.8%	62	9.6%	+21	+3.2%
2　ある程度の距離感を保ちつつ、緊急の場合に助け合えるために必要だと思う	331	50.9%	360	55.6%	▲29	▲4.7%
3　近所との良好な関係を築きトラブルをなくすために必要だと思う	101	15.5%	112	17.3%	▲11	▲1.8%
4　わずらわしいと思うが、日常生活で便利なことが多いので必要だと思う	18	2.8%	14	2.2%	+4	+0.6%
5　わずらわしいことが多いので、あまりしたくない	47	7.2%	47	7.3%	+0	▲0.0%
6　近所付き合いしなくても困らないので、したくない	46	7.1%	39	6.0%	+7	+1.0%
7　その他（自由記載）	9	1.4%	8	1.2%	+1	+0.1%
99　無回答	15	2.3%	5	0.8%	+10	+1.5%

単純集計結果②



問２－３　お住いの地域でどのような活動にどれぐらいの頻度で参加・活動をしていますか。

新規

考察

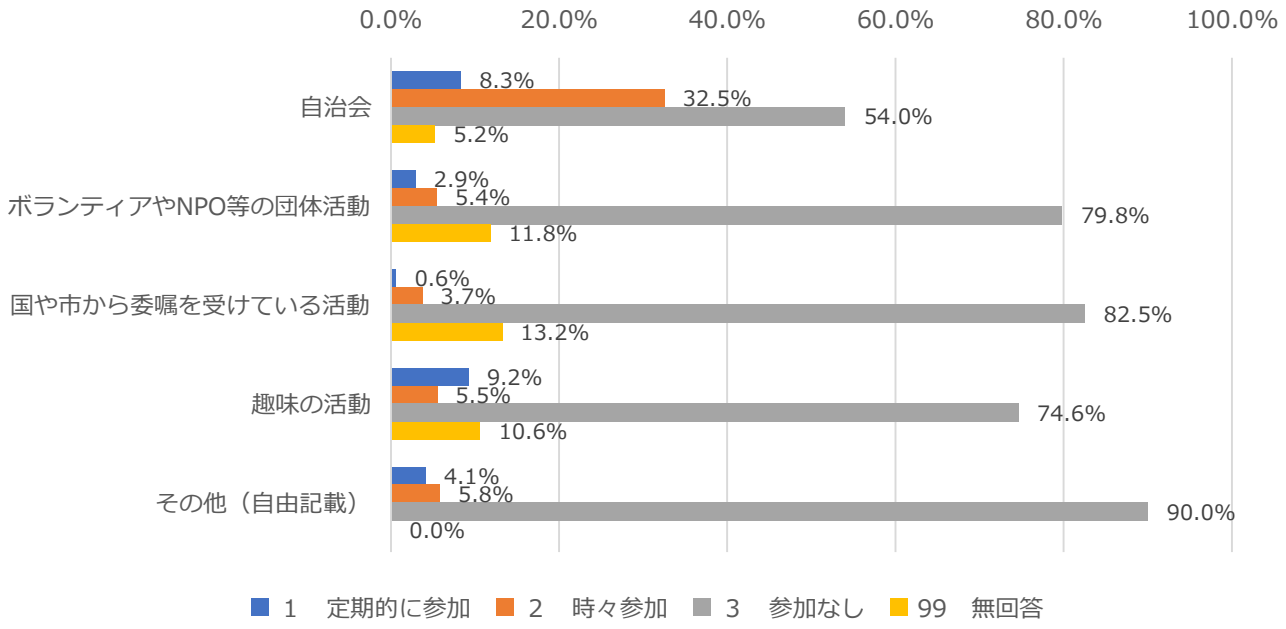
いずれの活動でも「参加なし」と回答した人が最も多く、特にボランティア・NPO活動や国、自治体から委嘱を受けた活動では参加率が低い傾向がみられます。一方で、自治会活動は「定期的に参加」「時々参加」を合わせると40.8%となり、他の活動と比べて参加者が比較的多くなっています。

単純集計結果①

	A　自治会（n=650）		B　ボランティアやNPO等の団体活動（n=650）		C　国や市から委嘱を受けている活動（○○委員、○○推進員等）（n=650）		D　趣味の活動（サークル活動や学習会、地域サロンへの参加等）（n=650）		E　その他（自由記載）（n=650）	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　定期的に参加	54	8.3%	19	2.9%	4	0.6%	60	9.2%	17	2.6%
2　時々参加	211	32.5%	35	5.4%	24	3.7%	36	5.5%	24	3.7%
3　参加なし	351	54.0%	519	79.8%	536	82.5%	485	74.6%	370	56.9%
99　無回答	34	5.2%	77	11.8%	86	13.2%	69	10.6%	239	36.8%

※各活動ごとに集計
※今回調査の回答区分を再分類して比較
・定期的に参加⇒ほぼ毎日、週1～3回程度、月1～3回程度　・時々参加⇒年3～5回程度、年1～2回程度
・参加なし⇒参加活動なし

単純集計結果②



問２－３関連　住まいの地域の活動に「参加なし」と回答した主な理由を教えてください。（あてはまる番号すべてに○印）　新規

考察

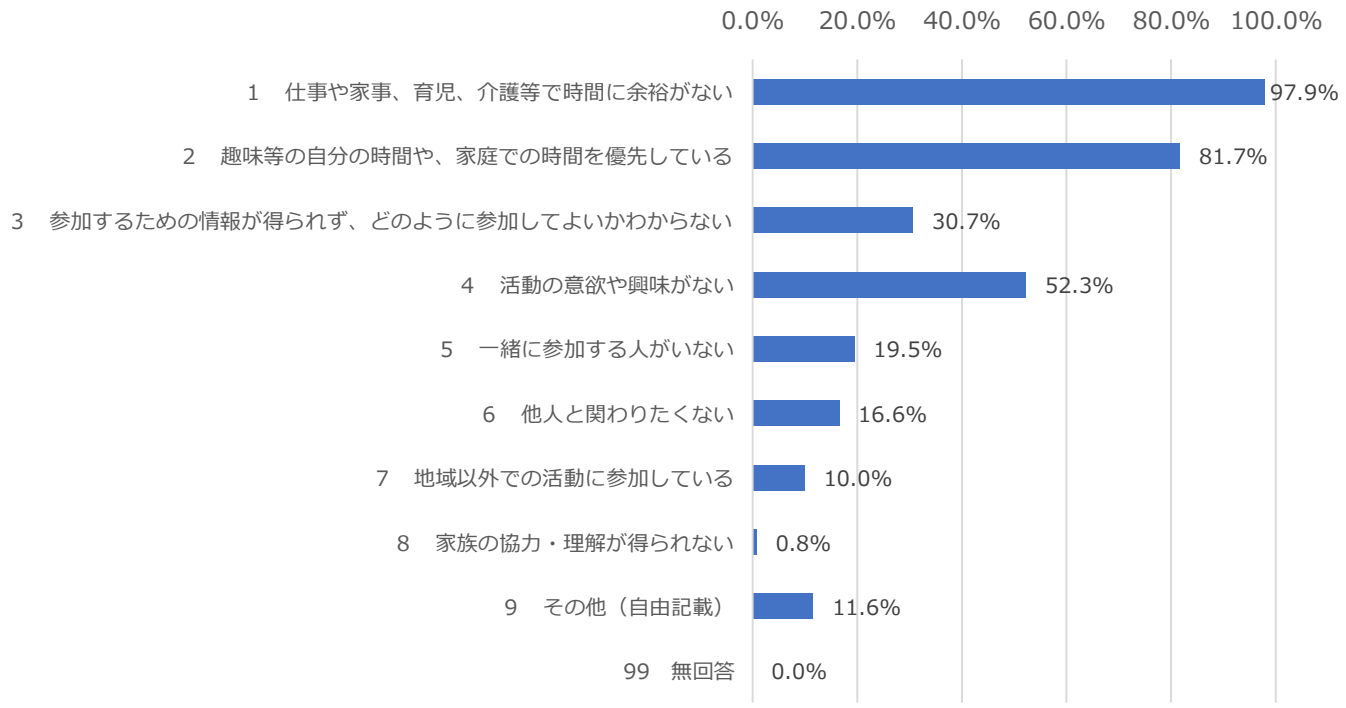
「仕事や家事、育児、介護等で時間に余裕がない」、「趣味等の自分の時間や、家庭での時間を優先している」と回答した人が多く、時間の使い方が地域活動への参加に影響していることがうかがえます。

単純集計結果①

n=241

	人数	構成比
1　仕事や家事、育児、介護等で時間に余裕がない	236	97.9%
2　趣味等の自分の時間や、家庭での時間を優先している	197	81.7%
3　参加するための情報が得られず、どのように参加してよいかわからない	74	30.7%
4　活動の意欲や興味がない	126	52.3%
5　一緒に参加する人がいない	47	19.5%
6　他人と関わりたくない	40	16.6%
7　地域以外での活動に参加している	24	10.0%
8　家族の協力・理解が得られない	2	0.8%
9　その他（自由記載）	28	11.6%
99　無回答	0	0.0%

単純集計結果②



問２－４①　地域で困っている人に手助けしていること・手助けできること（あてはまる番号すべてに〇印）　新規

考察

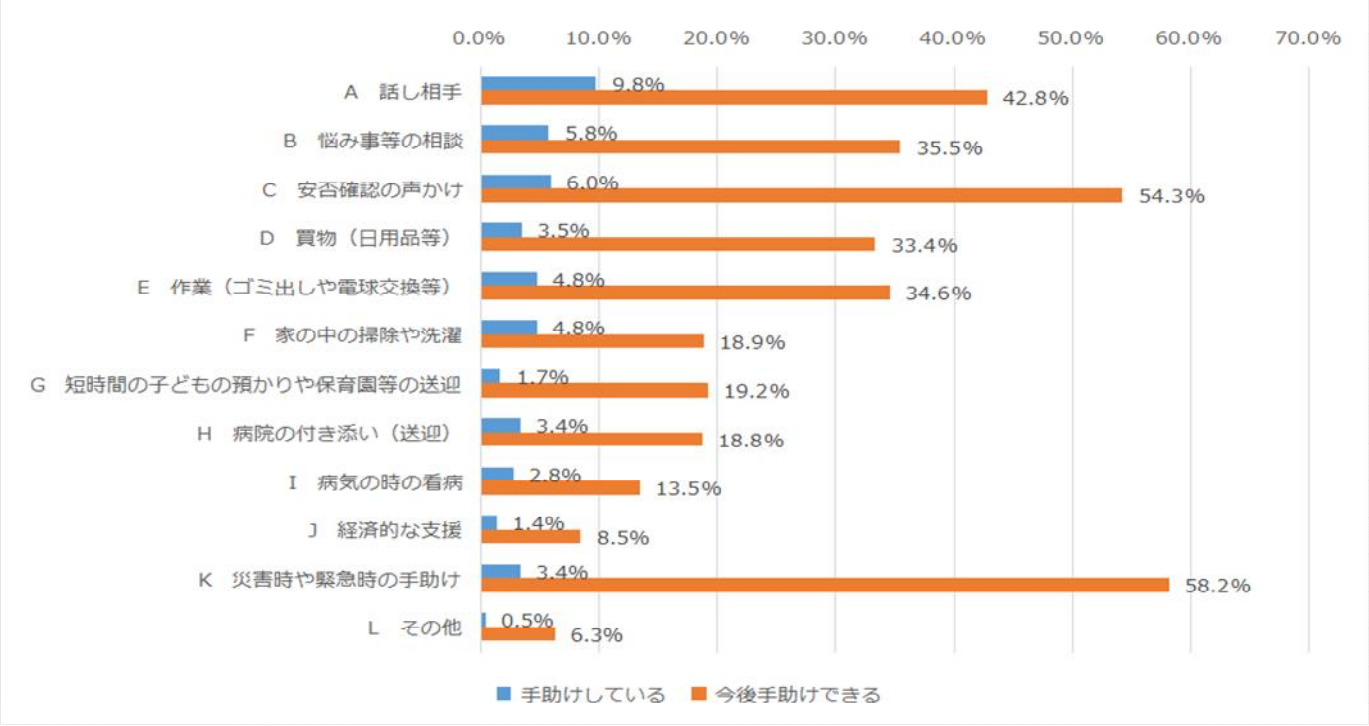
実際に手助けしている人は少ない一方、「今後手助けできる」と考える人は多く、地域住民の支え合いへの意識の高さがうかがえます。
特に安否確認や災害時の手助けなど、日常的な見守りや緊急時の助け合いに対する協力意向が高い傾向がみられます。

単純集計結果①

n=650

	手助けしている		今後手助けできる	
	人数	構成比	人数	構成比
A　話し相手	64	9.8%	278	42.8%
B　悩みごと等の相談	38	5.8%	231	35.5%
C　安否確認の声かけ	39	6.0%	353	54.3%
D　買い物（日用品等）	23	3.5%	217	33.4%
E　作業（ゴミ出しや電球交換等）	31	4.8%	225	34.6%
F　家の中の掃除や洗濯	31	4.8%	123	18.9%
G　短時間の子どもの預かりや保育園等の送迎	11	1.7%	125	19.2%
H　病院の付き添い（送迎）	22	3.4%	122	18.8%
I　病気のときの看病	18	2.8%	88	13.5%
J　経済的な支援	9	1.4%	55	8.5%
K　災害時や緊急時の手助け	22	3.4%	378	58.2%
L　その他（自由記載）	3	0.5%	41	6.3%

単純集計結果②



問２－４②　地域で困っている人に手助けすることが難しいこと（あてはまる番号すべてに〇印）　新規

考察

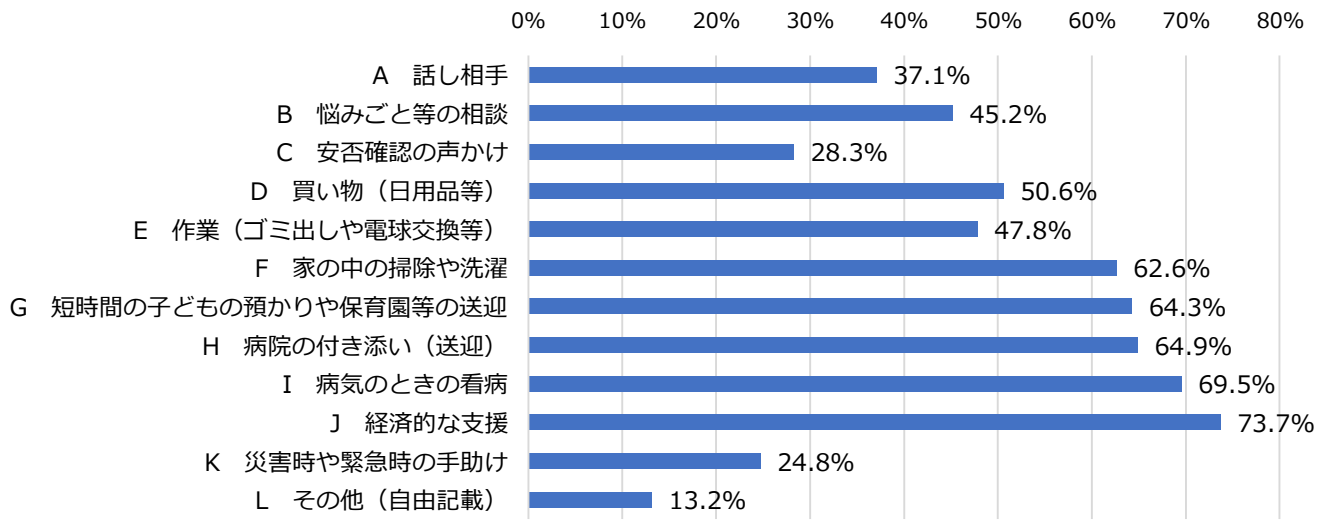
経済的な支援や病気のときの看病など、継続的な対応や一定の負担を伴う支援を難しいと感じる人が多い結果となりました。

単純集計結果①

n=650

	手助けが難しい	
	人数	構成比
A　話し相手	241	37.1%
B　悩みごと等の相談	294	45.2%
C　安否確認の声かけ	184	28.3%
D　買い物（日用品等）	329	50.6%
E　作業（ゴミ出しや電球交換等）	311	47.8%
F　家の中の掃除や洗濯	407	62.6%
G　短時間の子どもの預かりや保育園等の送迎	418	64.3%
H　病院の付き添い（送迎）	422	64.9%
I　病気のときの看病	452	69.5%
J　経済的な支援	479	73.7%
K　災害時や緊急時の手助け	161	24.8%
L　その他（自由記載）	86	13.2%

単純集計結果②



問２－４③　地域の人に手助けしてほしいこと（あてはまる番号すべてに〇印）

新規

考察

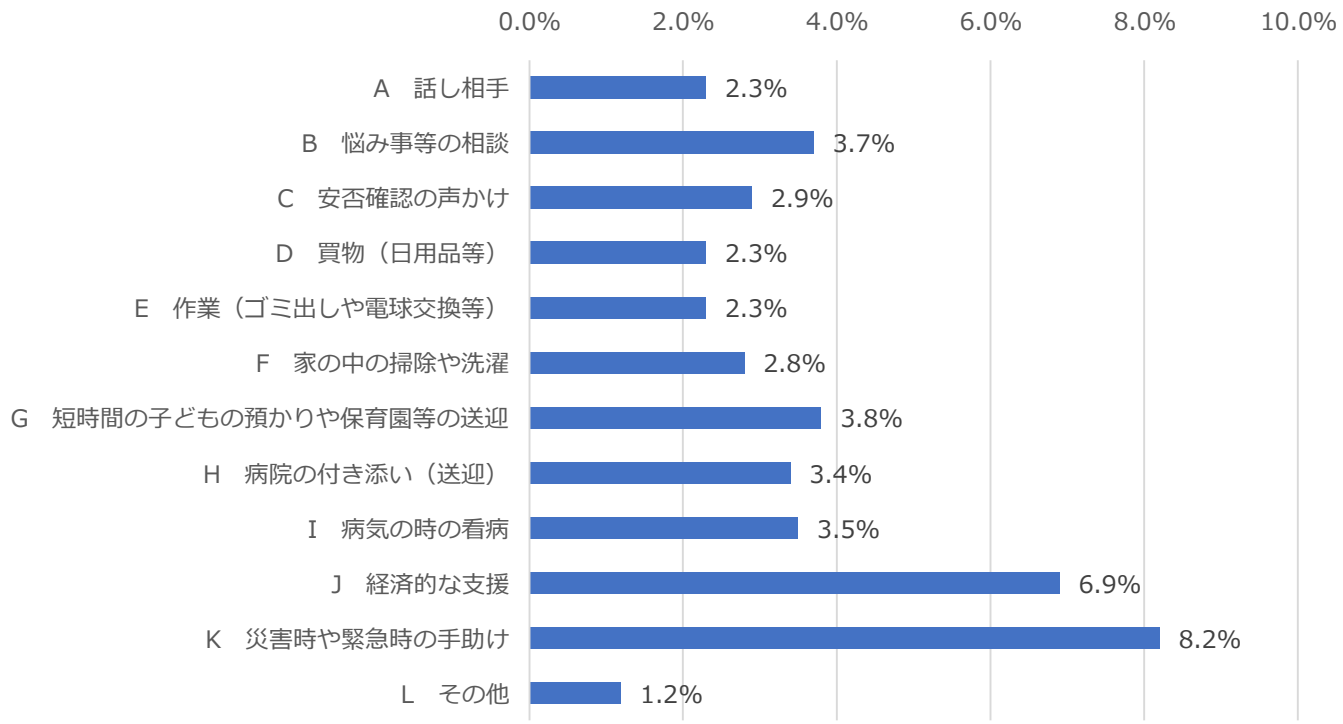
「悩みごと等の相談」や「災害時や緊急時の手助け」、「経済的な支援」を求める割合が比較的高く、精神的・生活的な支援へのニーズがみられます。

単純集計結果①

n=650

	人数	構成比
A　話し相手	15	2.3%
B　悩みごと等の相談	24	13.4%
C　安否確認の声かけ	19	3.7%
D　買い物（日用品等）	15	2.9%
E　作業（ゴミ出しや電球交換等）	15	2.3%
F　家の中の掃除や洗濯	18	2.8%
G　短時間の子どもの預かりや保育園等の送迎	25	3.8%
H　病院の付き添い（送迎）	22	3.4%
I　病気のときの看病	23	3.5%
J　経済的な支援	45	6.9%
K　災害時や緊急時の手助け	53	8.2%
L　その他（自由記載）	8	1.2%

単純集計結果②



問２－５　助けを求めるときに主に頼りにする人や機関はありますか。（あてはまる番号すべてに○印）

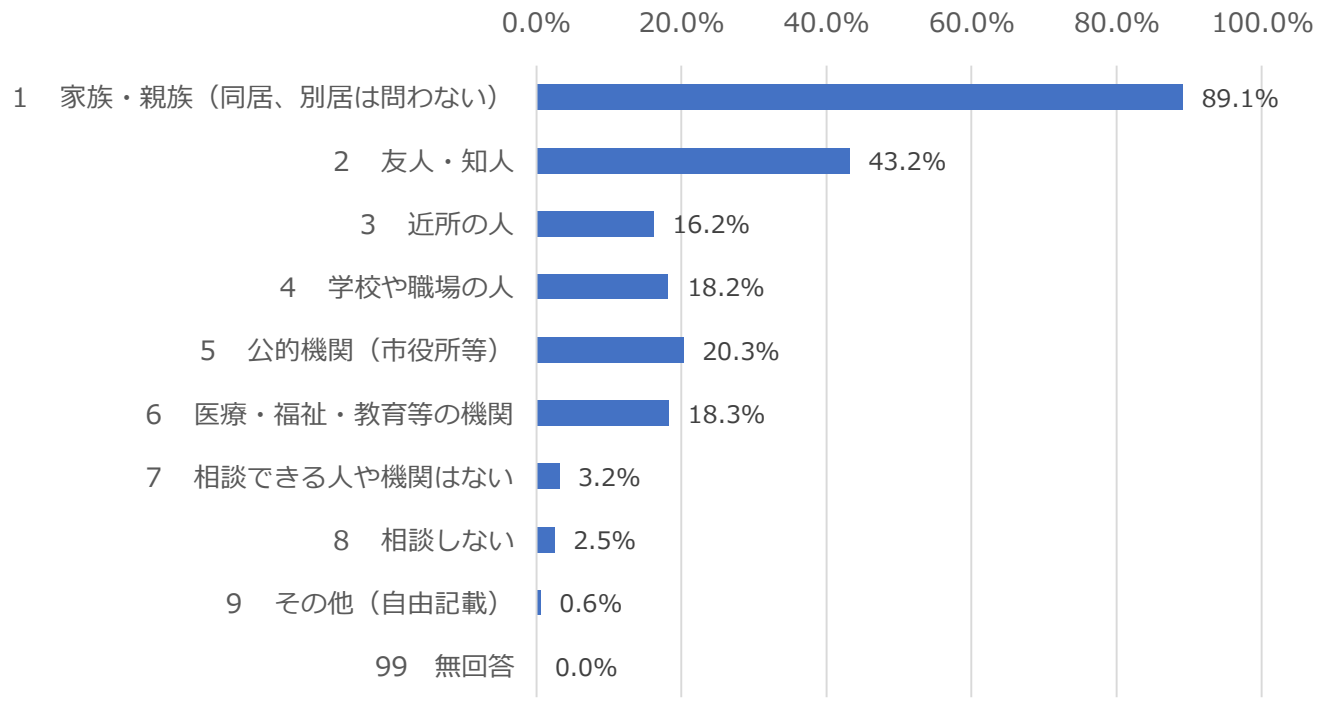
考察

助けを求める相手としては「家族・親族」が最も多く、依然として身近な人が重要な相談先となっています。次いで「知人・友人」、「公的機関（市役所等）」となっています。

単純集計結果①

	人数	構成比
1　家族・親族（同居、別居は問わない）	579	89.1%
2　友人・知人	281	43.2%
3　近所の人	105	16.2%
4　学校や職場の人	118	18.2%
5　公的機関（市役所等）	132	20.3%
6　医療・福祉・教育等の機関	119	18.3%
7　相談できる人や機関はない	21	3.2%
8　相談しない	16	2.5%
9　その他（自由記載）	4	0.6%
99　無回答	0	0.0%

単純集計結果②



（３）こころの健康について

問３－１　日ごろ悩みや不満、ストレスについて、相談したり、助けを求めることにためらいを感じますか。（あてはまる番号に○印を１つ）

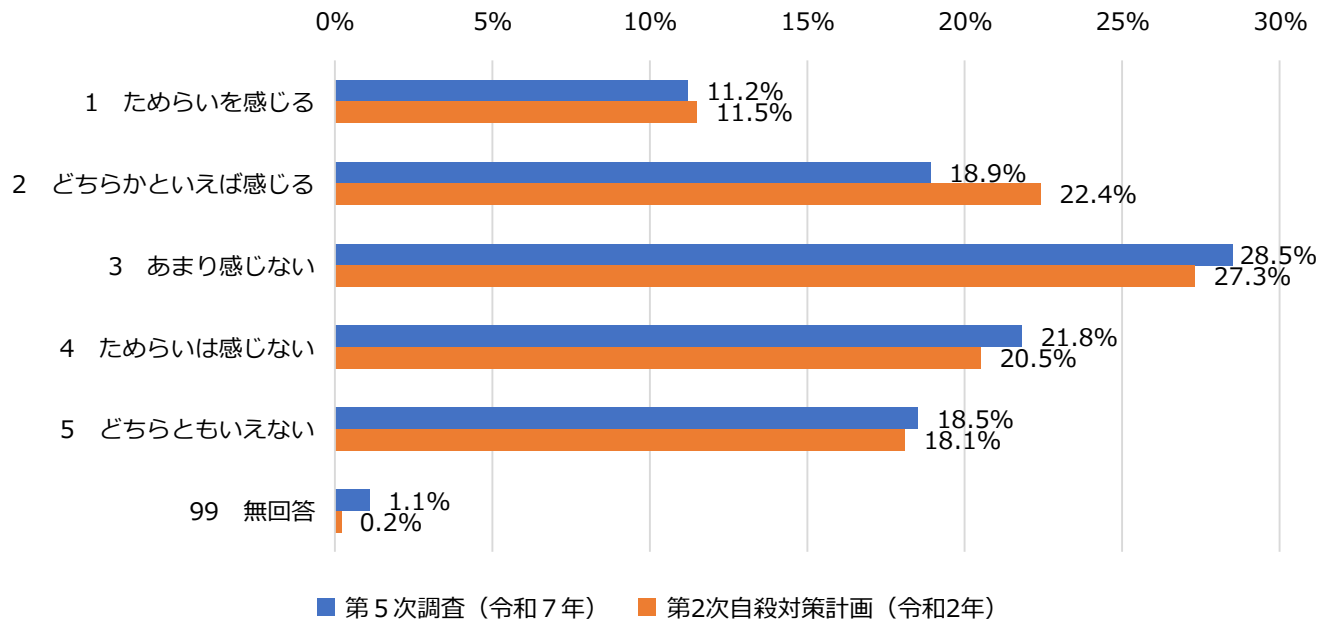
考察

第２次自殺対策計画時の調査と比較すると、相談や援助要請に対する抵抗感は全体として大きな変化はみられません。全体的にほぼ横ばいですが、「どちらかといえば感じる」が減少しています。

単純集計結果①

	第5次 (n=650)		第2次自殺対策計画 (n=513)		増減	
	人数	構　成　比	人数	構成比	人数	構成比
1　ためらいを感じる	73	11.2%	59	11.5%	+14	▲0.3%
2　どちらかといえば感じる	123	18.9%	115	22.4%	+8	▲3.5%
3　あまり感じない	185	28.5%	140	27.3%	+45	+1.2%
4　ためらいは感じない	142	21.8%	105	20.5%	+37	+1.3%
5　どちらともいえない	120	18.5%	93	18.1%	+27	+0.4%
99　無回答	7	1.1%	1	0.2%	+6	+0.9%

単純集計結果②



問３－１関連　日ごろ悩みや不満、ストレスについて、相談したり、助けを求めることにためらいを感じる理由は何ですか。（あなたの考えに最も近い番号に○印を１つ）

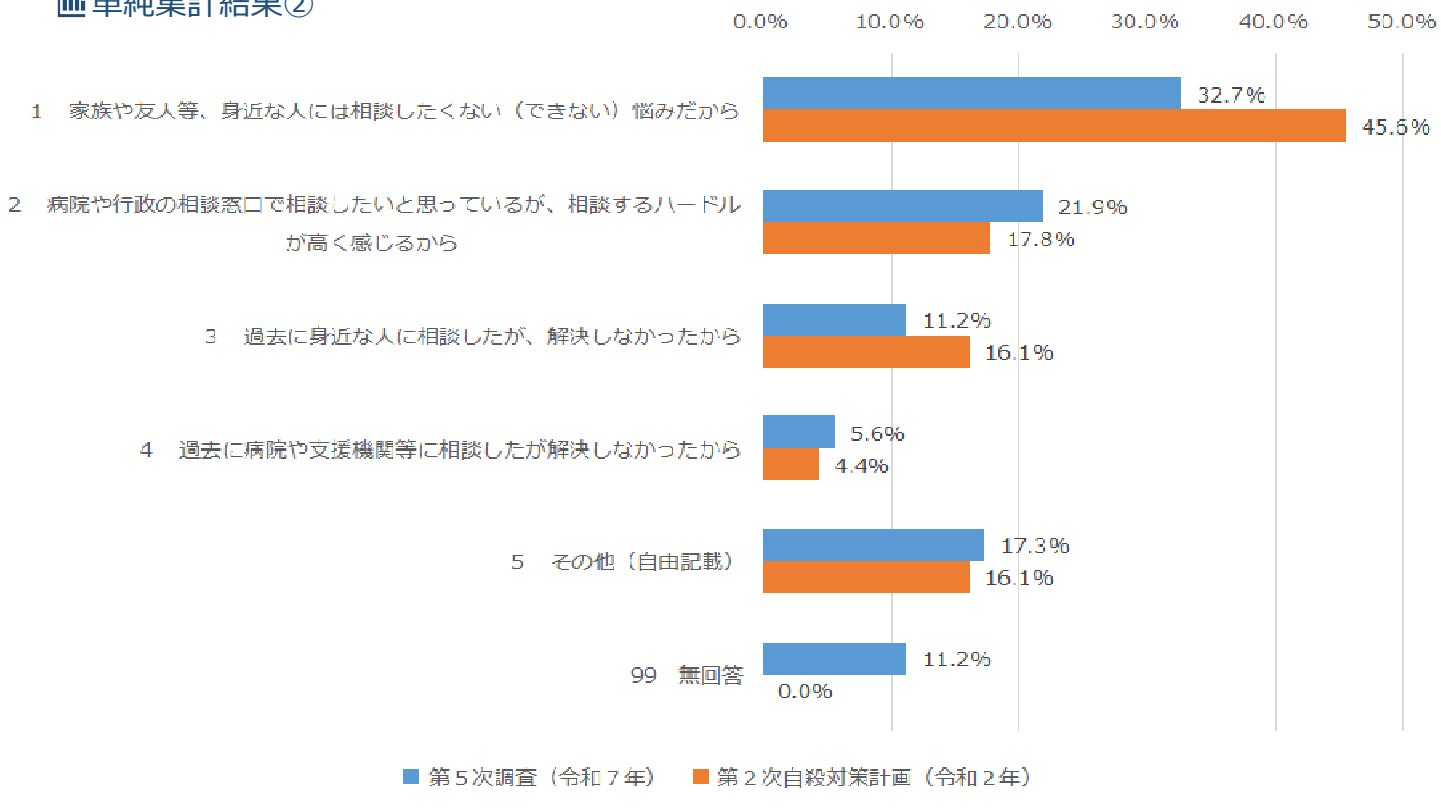
考察

第2次自殺対策計画調査同様、「家族や友人など身近な人には相談したくない」が最も多い結果となりましたが、今回の調査結果では、回答数、構成比ともに減少しています。一方で、「病院や行政の相談窓口で相談したいと思っているが、相談するハードルが高く感じる」が増加しています。

単純集計結果①

	第5次 (n=196)		第2次自殺対策計画 (n=180)		増減	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　家族や友人等、身近な人には相談したくない（できない）悩みだから	64	32.7%	82	45.6%	▲18	▲12.9%
2　病院や行政の相談窓口で相談したいと思っているが、相談するハードルが高く感じるから	43	21.9%	32	17.8%	+11	+4.1%
3　過去に身近な人に相談したが、解決しなかったから	22	11.2%	29	16.1%	▲7	▲4.9%
4　過去に病院や支援機関等に相談したが、解決しなかったから	11	5.6%	8	4.4%	+3	+1.2%
5　その他（自由記載）	34	17.3%	29	16.1%	+5	+1.2%
99　無回答	22	11.2%	0	0.0%	+22	+11.2%

単純集計結果②



問３－２　過去30日間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。（各項目AからFについてあてはまる番号に○印を１つ）

考察

今回の調査では、正常（0～4点）が増加しており、全体として精神的健康状態は改善傾向にあることがうかがえます。一方で、不調（13点以上）は前回とほぼ同水準で推移しており、心理的な困難を抱える人への継続的な支援が引き続き重要と考えられます。

《設問》

A　神経過敏に感じた
B　絶望的に感じた
C　ソワソワ落ち着かなく感じた
D　気分が沈み込んで何が起こっても気が晴れないように感じた
E　何をするにも骨折りだと感じた
F　自分は価値のない人間に感じた

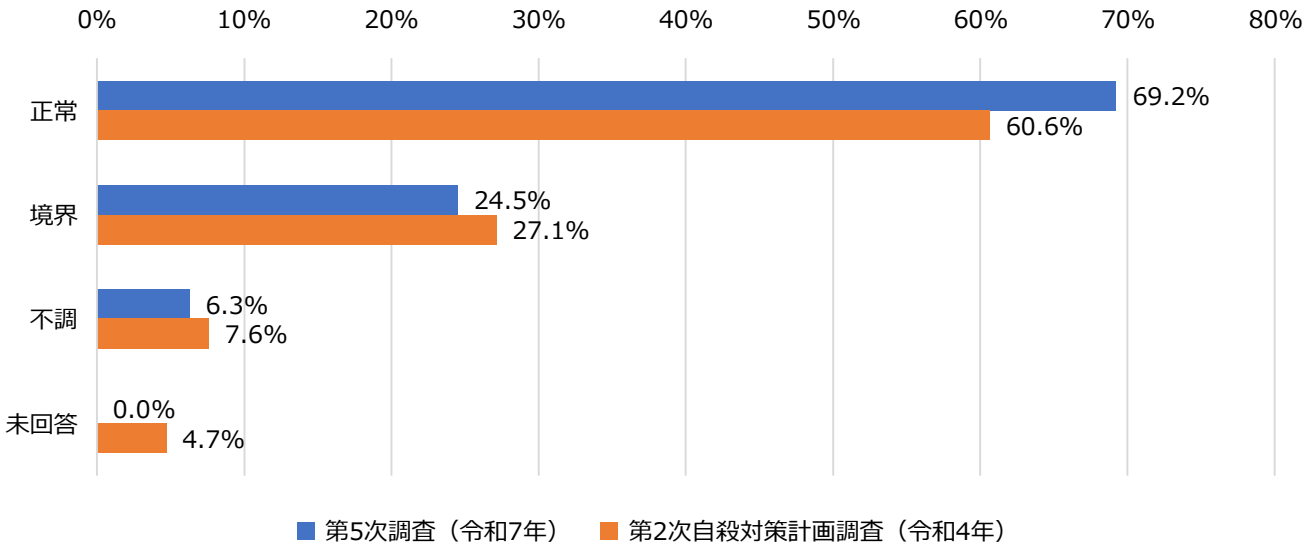
《選択肢》

1.全くない・・・0点
2.少しだけ・・・1点
3.ときどき・・・2点
4.たいてい・・・3点
5.いつも・・・・4点

単純集計結果①

	第5次 (n=650)		第2次自殺対策計画 (n=513)		増減	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　正常　0点から4点	450	69.2%	311	60.6%	+139	+8.6%
2　境界　5点から12点	159	24.5%	139	27.1%	+20	▲2.6%
3　不調　13点以上	41	6.3%	39	7.6%	+2	▲1.3%
99　無回答	0	0.0%	24	4.7%	▲24	▲4.7%

単純集計結果②



※K6分析とは

うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的としており心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されています。合計点が高いほど、精神的な問題がより重い可能性があるとされています。

問３－３　睡眠状況について（あてはまる番号に○印を１つ）

新規

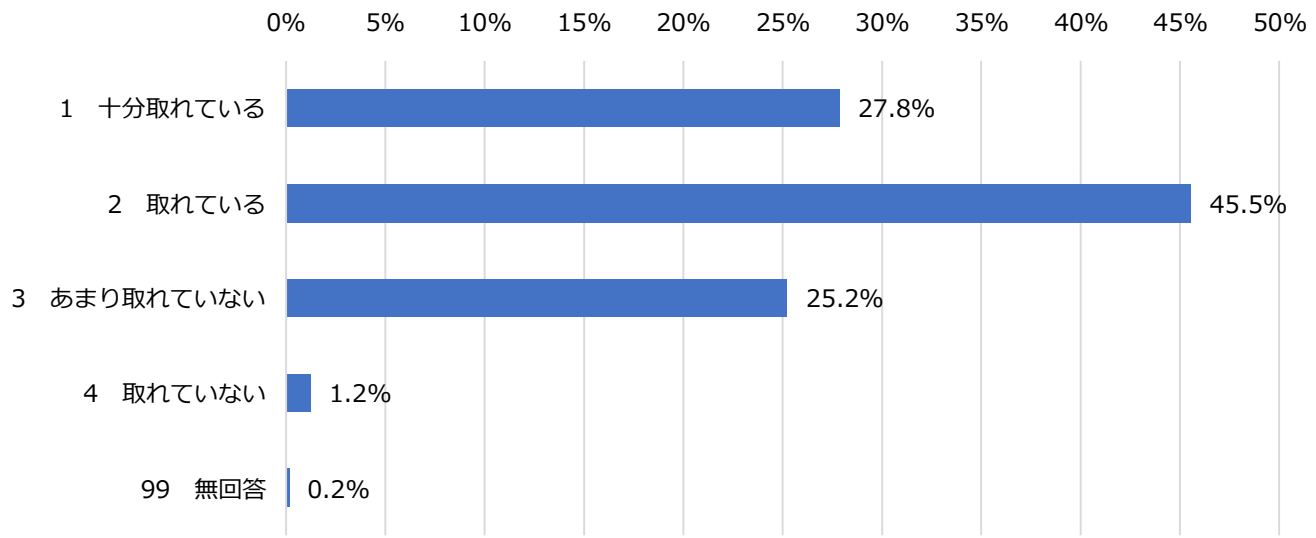
考察

「十分取れている」「取れている」と回答した人が7割を超えています。一方で、約3割の人が「あまり取れていない」と回答しています。

単純集計結果①

	人数	構成比
1　十分取れている	181	27.8%
2　取れている	296	45.5%
3　あまり取れていない	164	25.2%
4　取れていない	8	1.2%
99　無回答	1	0.2%

単純集計結果②



問３－４　社会的参加（仕事・学校・家庭外での交流）を避け、６か月以上にわたって自宅にいますか。（あてはまる番号に○印を１つ）（ひきこもりの状態）

新規

考察

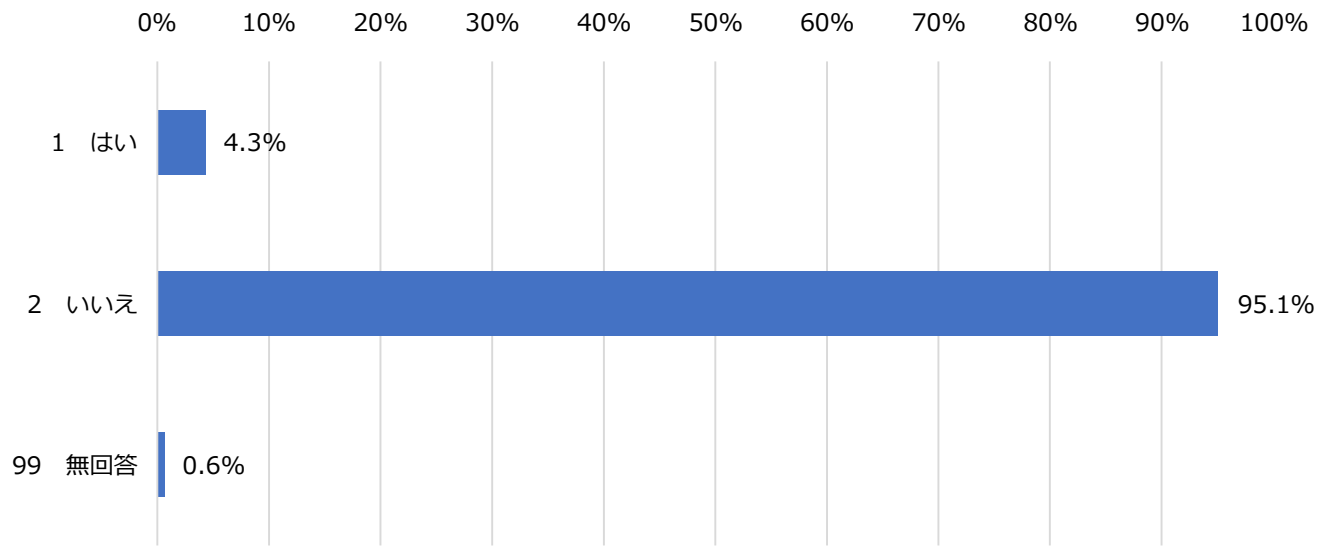
「ひきこもりの状態にある」と回答した人は少数である一方、一定数存在しており、社会的孤立や生活上の課題を抱えている可能性が考えられます。

単純集計結果①

n=650

	人数	構成比
1　はい	28	4.3%
2　いいえ	618	95.1%
99　無回答	4	0.6%

単純集計結果②



問３－５　日ごろ、孤独や孤立を感じることはありますか。（あてはまる番号に○印を１つ）　新規

考察

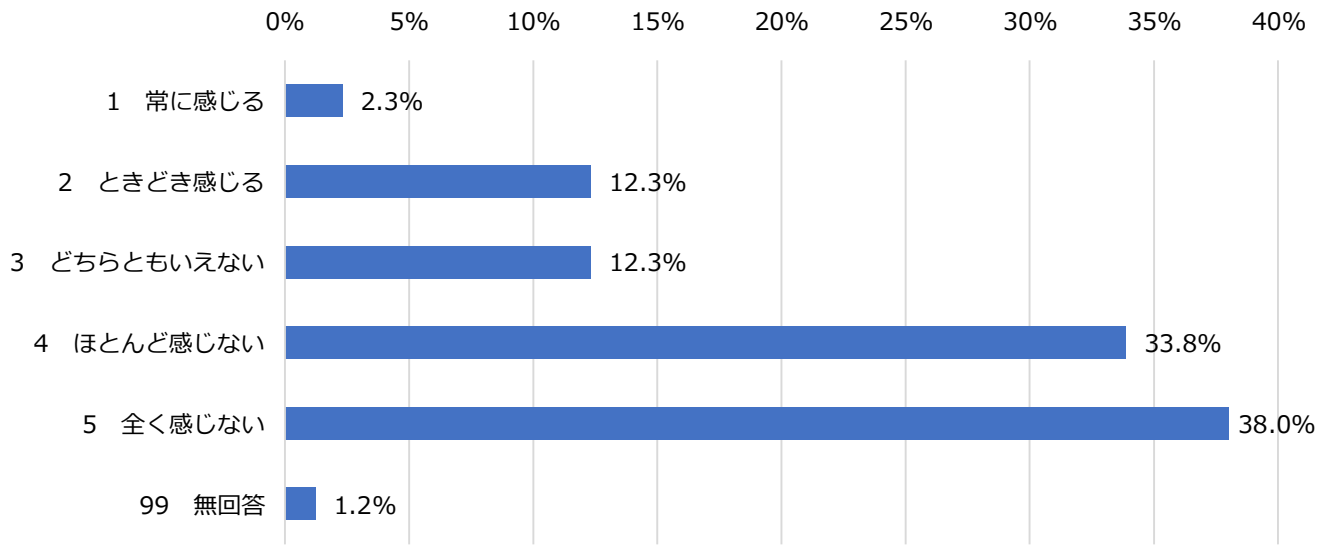
「ほとんど感じない」「全く感じない」と回答した人が合わせて約７割を占める一方で、「常に感じる」「ときどき感じる」と回答した人も約１割います。

単純集計結果①

n=650

	人数	構成比
1　常に感じる	15	2.3%
2　ときどき感じる	80	12.3%
3　どちらともいえない	80	12.3%
4　ほとんど感じない	220	33.8%
5　全く感じない	247	38.0%
99　無回答	8	1.2%

単純集計結果②



問３－５関連①　孤独や孤立を感じる要因として考えられるものは何ですか。（あてはまる番号すべてに○印）　新規

考察

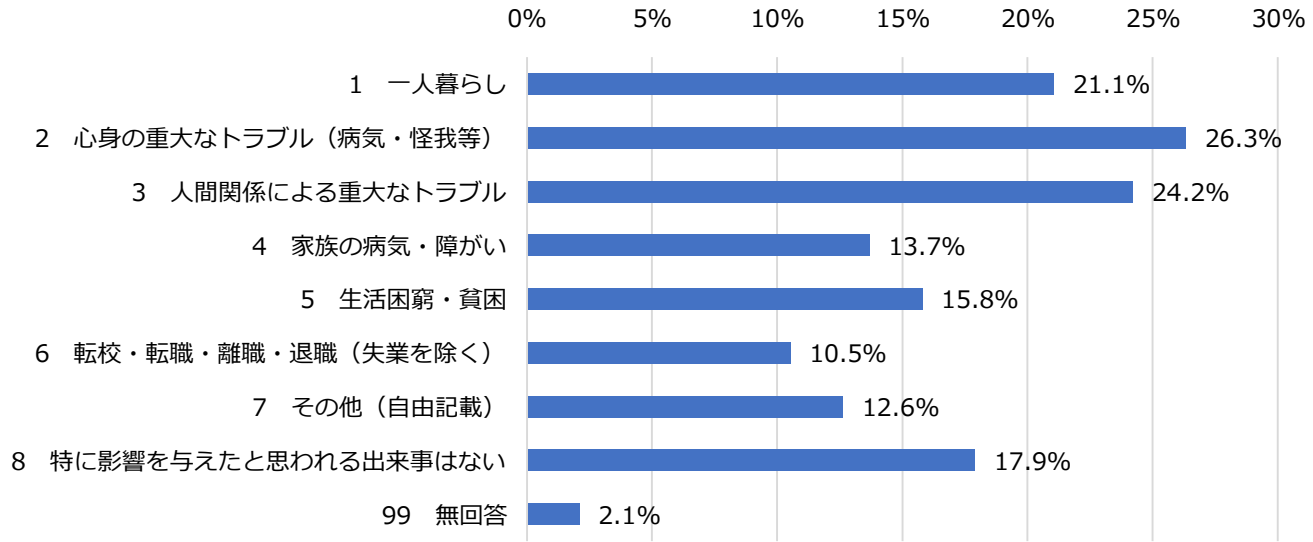
孤独や孤立を感じる要因としては、「心身の重大なトラブル」や「人間関係による重大なトラブル」が多く、健康問題や対人関係の課題が孤立感に大きく影響していることがうかがえます。

単純集計結果①

n=95

	人数	構成比
1　一人暮らし	20	21.1%
2　心身の重大なトラブル（病気・怪我等）	25	26.3%
3　人間関係による重大なトラブル	23	24.2%
4　家族の病気・障がい	13	13.7%
5　生活困窮・貧困	15	15.8%
6　転校・転職・離職・退職（失業を除く）	10	10.5%
7　その他（自由記載）	12	12.6%
8　特に影響を与えたと思われる出来事はない	17	17.9%
99　無回答	2	2.1%

単純集計結果②



問３－５関連②　孤独や孤立を感じる状況からかわりたいと思いますか。（あてはまる番号に○印を１つ）　新規

考察

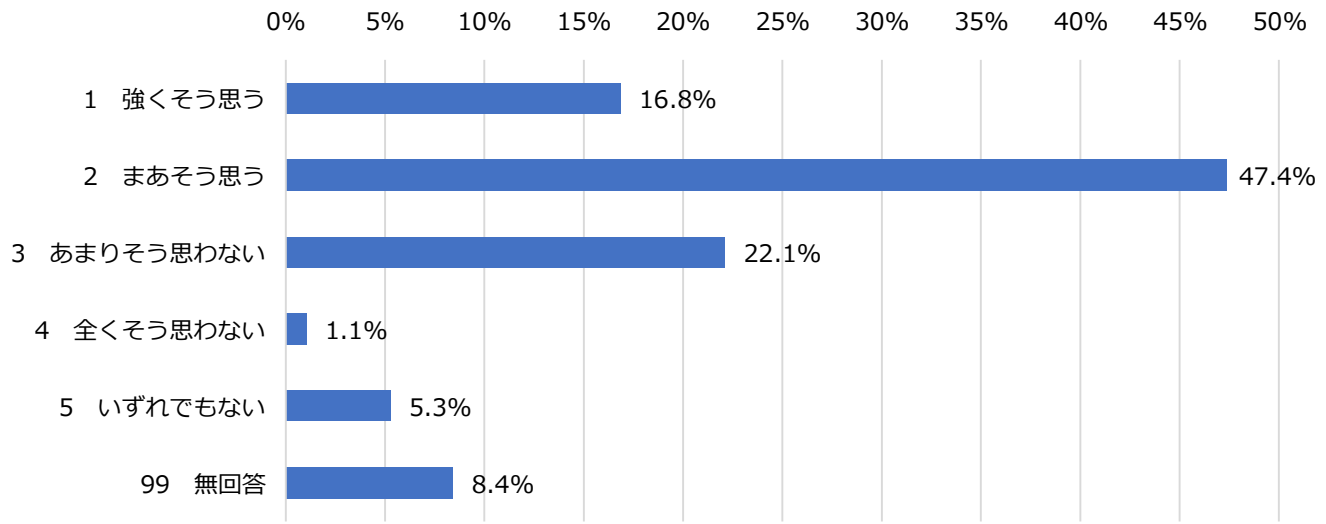
「強くそう思う」、「まあそう思う」と回答した人が約６割いることから、孤独・孤立状態にある人が必要な支援を受け、地域とのつながりを持つことができるよう、相談しやすい環境づくりや参加の機会の充実が求められます。

単純集計結果①

n=95

	人数	構成比
1　強くそう思う	16	16.8%
2　まあそう思う	45	47.4%
3　あまりそう思わない	21	22.1%
4　全くそう思わない	1	1.1%
5　いずれでもない	5	5.3%
99　無回答	8	8.4%

単純集計結果②



（４）地域福祉への認識・関心

問４－１　地域福祉に関する制度や機関等の、認識度、関心度についてお答えください。（あてはまる番号に○印を１つ）

認識度

考察

自治会や児童相談所など身近な制度・機関は比較的認知度が高い一方で、専門的な相談機関や新たな制度では認知度が低い傾向がみられました。必要な支援を必要な人に届けるためには、市民に分かりやすく情報を発信し、制度や機関の存在を広く周知していくことが重要であると考えられます。

単純集計結果①

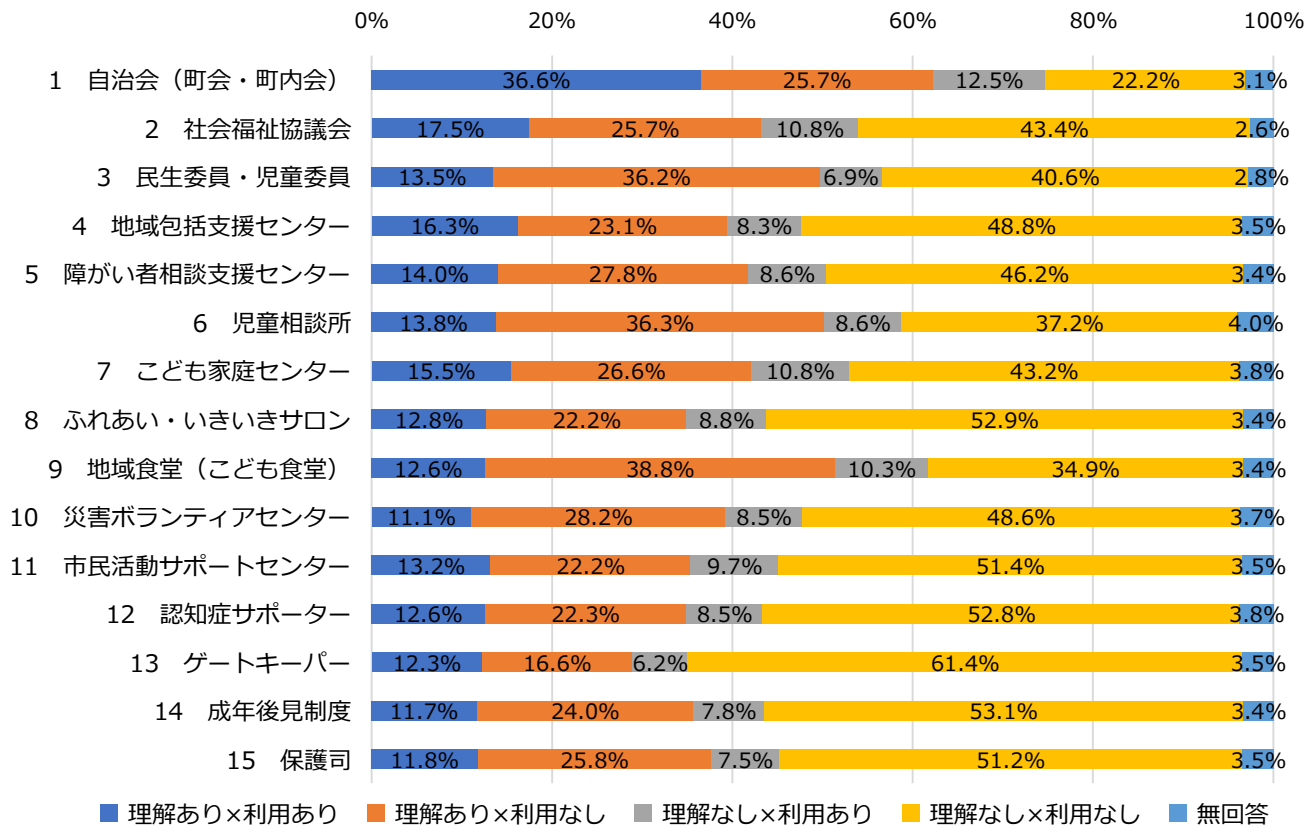
①内容を理解している×利用や関わりがある（あった）
②内容を理解している×利用や関わりはない
③内容を理解していない×利用や関わりがある（あった）
④内容を理解していない×利用や関わりはない

	①理解あり×利用あり		②理解あり×利用なし		③理解なし×利用あり		④理解なし×利用なし		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　自治会（町会・町内会）	238	36.6%	167	25.7%	81	12.5%	144	22.2%	20	3.1%
2　社会福祉協議会	114	17.5%	167	25.7%	70	10.8%	282	43.4%	17	2.6%
3　民生委員・児童委員	88	13.5%	235	36.2%	45	6.9%	264	40.6%	18	2.8%
4　地域包括支援センター	106	16.3%	150	23.1%	54	8.3%	317	48.8%	23	3.5%
5　障がい者相談支援センター	91	14.0%	181	27.8%	56	8.6%	300	46.2%	22	3.4%
6　児童相談所	90	13.8%	236	36.3%	56	8.6%	242	37.2%	26	4.0%
7　こども家庭センター	101	15.5%	173	26.6%	70	10.8%	281	43.2%	25	3.8%
8　ふれあい・いきいきサロン	83	12.8%	144	22.2%	57	8.8%	344	52.9%	22	3.4%
9　地域食堂（こども食堂）	82	12.6%	252	38.8%	67	10.3%	227	34.9%	22	3.4%
10　災害ボランティアセンター	72	11.1%	183	28.2%	55	8.5%	316	48.6%	24	3.7%
11　市民活動サポートセンター	86	13.2%	144	22.2%	63	9.7%	334	51.4%	23	3.5%
12　認知症サポーター	82	12.6%	145	22.3%	55	8.5%	343	52.8%	25	3.8%
13　ゲートキーパー	80	12.3%	108	16.6%	40	6.2%	399	61.4%	23	3.5%
14　成年後見制度	76	11.7%	156	24.0%	51	7.8%	345	53.1%	22	3.4%
15　保護司	77	11.8%	168	25.8%	49	7.5%	333	51.2%	23	3.5%

問４－１　地域福祉に関する制度や機関等の、認識度、関心度についてお答えください。（あてはまる番号に○印を１つ）

認識度

単純集計結果②



問４－１　地域福祉に関する制度や機関等の、認識度、関心度についてお答えください。（あてはまる番号に○印を１つ）

関心度

考察

多くの制度・機関において、「現在は利用していないが、今後は利用したい」と回答した人が一定数みられました。一方で、「今後も利用したくない」と回答した人も少なくないことから、制度への理解を深めるとともに、利用しやすい環境づくりや相談しやすい体制の充実が求められます。

単純集計結果①

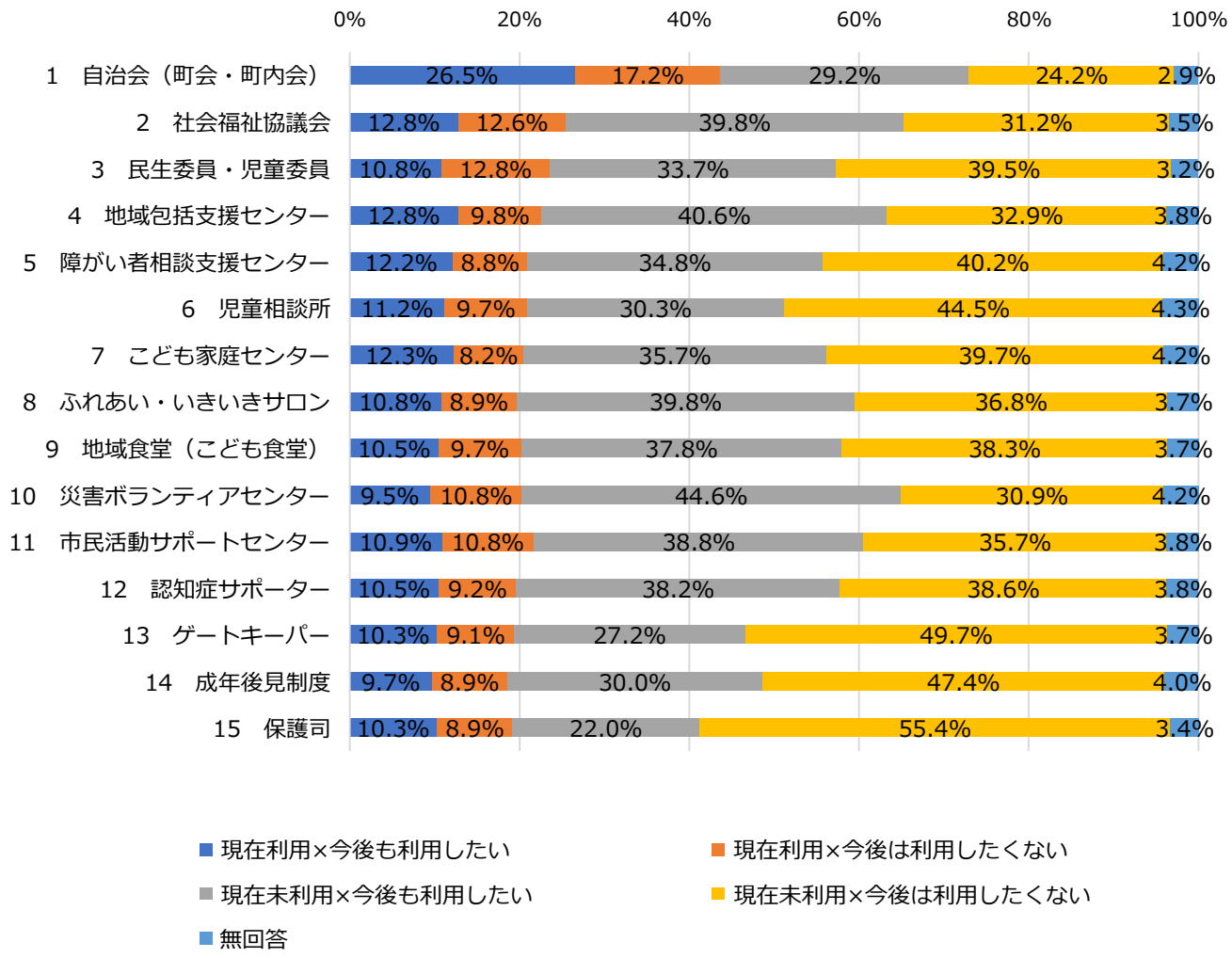
①利用や関わりがある（あった）×今後も利用または関わりたい
②利用や関わりがある×今後は利用や関わっていきたくない
③利用や関わりがない×今後は利用または関わっていきたい
④利用や関わりがない×今後も利用や関わりはない

	①現在利用×今後も利用したい		②現在利用×今後は利用したくない		③現在未利用×今後も利用したい		④現在未利用×今後も利用したくない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　自治会（町会・町内会）	172	26.5%	112	17.2%	190	29.2%	157	24.2%	19	2.9%
2　社会福祉協議会	83	12.8%	82	12.6%	259	39.8%	203	31.2%	23	3.5%
3　民生委員・児童委員	70	10.8%	83	12.8%	219	33.7%	257	39.5%	21	3.2%
4　地域包括支援センター	83	12.8%	64	9.8%	264	40.6%	214	32.9%	25	3.8%
5　障がい者相談支援センター	79	12.2%	57	8.8%	226	34.8%	261	40.2%	27	4.2%
6　児童相談所	73	11.2%	63	9.7%	197	30.3%	289	44.5%	28	4.3%
7　こども家庭センター	80	12.3%	53	8.2%	232	35.7%	258	39.7%	27	4.2%
8　ふれあい・いきいきサロン	70	10.8%	58	8.9%	259	39.8%	239	36.8%	24	3.7%
9　地域食堂（こども食堂）	68	10.5%	63	9.7%	246	37.8%	249	38.3%	24	3.7%
10　災害ボランティアセンター	62	9.5%	70	10.8%	290	44.6%	201	30.9%	27	4.2%
11　市民活動サポートセンター	71	10.9%	70	10.8%	252	38.8%	232	35.7%	25	3.8%
12　認知症サポーター	66	10.5%	60	9.2%	248	38.2%	251	38.6%	25	3.8%
13　ゲートキーパー	67	10.3%	59	9.1%	177	27.2%	323	49.7%	24	3.7%
14　成年後見制度	63	9.7%	58	8.9%	195	30.0%	308	47.4%	26	4.0%
15　保護司	67	10.3%	58	8.9%	143	22.0%	360	55.4%	22	3.4%

問４－１　地域福祉に関する制度や機関等の、認識度、関心度についてお答えください。（あてはまる番号に○印を１つ）

関心度

単純集計結果②



（５）情報の入手について

問５－１　困りごとを解決するための市の制度やサービス等の情報をどのように入手していますか。（あてはまる番号すべてに○印）

考察

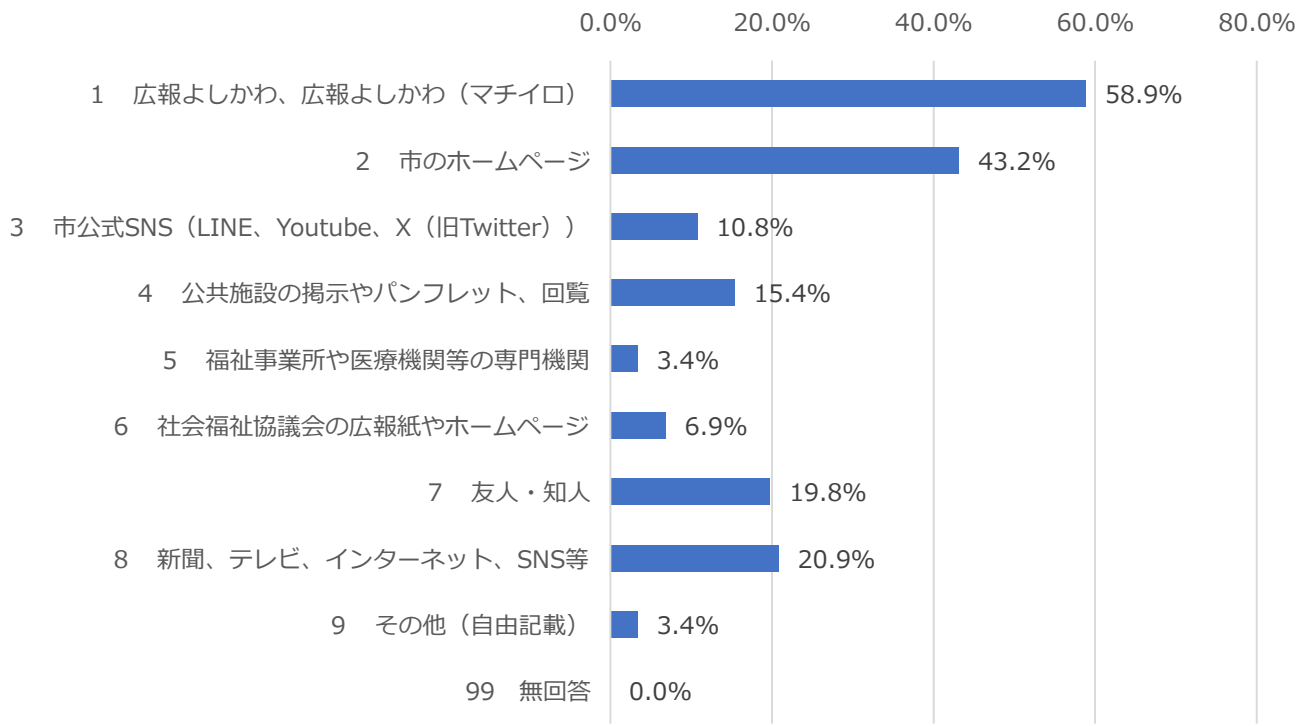
情報の入手手段は「広報よしかわ、広報よしかわ（マチイロ）」が最も多く、次いで「市のホームページ」が多くなっており、紙媒体とデジタル媒体の両方が重要な情報源となっています。また、口コミや各種メディアから情報を得る人も一定数みられることから、多様な手段による情報発信が必要であると考えます。

単純集計結果①

n=650

	人数	構成比
1　広報よしかわ、広報よしかわ（マチイロ）	383	58.9%
2　市のホームページ	281	43.2%
3　市公式SNS（LINE、Youtube、X(旧Twitter））	70	10.8%
4　公共施設の掲示やパンフレット、回覧	100	15.4%
5　福祉事業所や医療機関等の専門機関	22	3.4%
6　社会福祉協議会の広報紙やホームページ	45	6.9%
7　友人・知人	129	19.8%
8　新聞、テレビ、インターネット、SNS等	136	20.9%
9　その他（自由記載）	22	3.4%
99　無回答	0	0.0%

単純集計結果②



（６）今後の地域福祉について

自由記述の主な意見

※自由記述欄に寄せられた意見は内容ごとに整理・要約しており、以下には主な意見及び代表的な意見の一部を掲載しています。

①　地域活動・つながり

要約：自治会活動の地域格差を解消し、転入者への支援や日常的な挨拶・声掛けを通じた「顔の見える関係づくり」を求める意見が寄せられました。

- 地域によって自治会等の活動状況に差異があると感じる。活発な活動が継続できれば地域が活性化し、福祉の推進にもつながると思うが既に活動が縮小されてきている地域では、困難さを感じる。
- 周辺地域においても、少子高齢化・核家族化がすすんでいるため、日常的に近隣住民との交流、挨拶、情報交換など積極的に行うことが重要と思います。
- 短期間でも参加できる仕組みがあると良いと思います。
- 他県から引っ越してきて地域との繋がりがそもそもないので、つなぎ役のような人がいると繋がりやすいと思います。自ら問い合わせをするというハードルが高いです。
- 近所の人達の付き合い、あいさつもしない方々が多い今日です。お互いのことが知らないのに地域福祉はむずかしい。

②　孤独・孤立対策

要約：独居高齢者への訪問やアウトリーチを強化し、孤独死を防ぐための早期発見体制を構築すべきとの意見が寄せられました。

- 高齢者一人暮らし世帯への市役所からの積極的な訪問。
- 全国的に単身世帯が増加している中、吉川市も例外ではないと思います。地域のつながりが薄れ孤独、孤立している方々はやがて孤独死という結果を向かえることにもなりかねません。できればアウトリーチ的なやり方で工夫しながらやっていくしかないと思います。
- 2、3日1回の見回り運動。
- 地域的に声掛けをして頂ける方が減少傾向にあり、また外の人に家庭に踏み込んで欲しくないという気持ちもあり手助けが必要でも声に出せない（発信）方も多いと考えます。（独居老人など）家族で住んでいても実情として高齢者は独立していると考えます。若年層～中年層にも余裕がなのではないか？そういった面も考慮し全体的なファローをお願いしたい。

③　助け合い・支え合い

要約：ボランティアの限界を補う専門職の介入、負担の公平化、民生委員等の保障改善を求める意見が寄せられました。

- 活動している人達の高齢化と、新たな人材を探すのも難しい状況で、ボランティア活動の限界がみえていると思う。
- 一般のボランティアに頼ることなく行政の力強い介入を求める。
- 民生委員さん、児童委員さん、保護司さんなどの立場と保障（安全や報酬など）をきちんとすべきでは？断りきれずに受けているというケースも少なくない現状で今後さらになり手がいなくなると思われます。
- 地域住民の一部の人の負担による地域福祉ではなく民間企業などに頼るなど、ボランティア中心の考えを変えてもらえるともっと積極的に参加したくなります。当番で回ってくるとの思いが消極的にさせています。

自由記述の主な意見

④　高齢者支援

要約：介護不足への不安解消、成年後見の推進、安価な住宅確保など、老後の安心を支える基盤の充実を求める意見が寄せられました。

- 高齢者、成年後見センターの開設を評価しています。今後推進を見守っております。
- 父は介護状態で以前は定期巡回対応型訪問介護を利用していましたが現在吉川市ではなくなってしまって困っています。
- 高齢者向け専用住宅（団地）でも、安い賃貸で入れるよう進めてほしい。
- 老後生活の不安
- 介護保険や障害制度で不足（対象外）のある部分を市として積極的に助成していただけるようぜひ予算に組み入れていただきたい。ゴミヤシキの掃除、オムツ支給通院時ヘルパー助成。

⑤　こども・子育て支援

要約：不登校支援、保育・給食の無償化、児童館増設、登下校の見守りなど、多角的な支援が求める意見が寄せられました。

- 最近、不登校児や学校に悩みを抱える子供が非常に多いので、その様な子供達が自由に勉強出来る場所やまた学校や社会生活に復帰できるような支援があればいいなと思います。
- 0歳から保育料無償化してほしい。
- 保護者が働いていても、子どもが1人にならないよう登下校も見守る体制を作ってほしい。
- 児童福祉ー児童館の増設。中高生の集う中高センターの設立。市営保育園の増設。子ども権利条に基づく子どもの権利条例の制定。母子及び父子寡婦福祉ー子どもや家庭の支援援助の充実。
- 子どもたちが家の事情で食事を取れなかったり勉強ができなかったりしないようにしてほしいです。

⑥　障がい者支援

要約：相談員不足の解消、制度（手当・免除）の周知徹底、発達支援の拡充、バリアフリー化を求める意見が寄せられました。

- 障害者は高齢介護と比べ対象者が少なく、状況が多岐にわたるため、細かな問題を吸い上げて具体的な制度に載せ、解決をしていくのがとても難しいと感じております。家族との窓口の相談支援員も深刻な人手不足の中の業務により問題の深掘りができず、課題が見えにくいのも大きな問題があると考えます。
- 自分は障害者では無いと思っていたのですが市役所で声を掛けられ、障害者３級になりました。なぜ医者の方から障害者認定取れる事を言ってくれなかったのかわかりません。もっと早く障害者に成った事がわかる方法知りたかったです。
- もう少し発達支援センターを増やしてほしい。

自由記述の主な意見

⑦　健康づくり・相談支援

要約：専門職の配置や常設の交流拠点を含む、緊急相談から予防までを包括的に支える相談支援体制の構築が求める意見が寄せられました。

- 救急車を呼ぶべきかどうか迷った時に、#7119にまずは相談するシステムのような、プライマリーサポートの仕組みがあるとよいと思う。
- 精神科医(少なくとも3名)、公認心理士もしくは臨床心理士(少なくとも5名)を吉川市役所内で雇うこと。
- 健康寿命を延ばすためにも年間を通して同年代の方と体操やおしゃべりなどできる場所を常設して頂きたい。
- 子供、高齢者で困りごとを相談できるステーション窓口の充実。ケースにより、より専門各所への連絡システムで困りごとを放置しない。取りこぼしのないよう構築するために人材育成などに尽力することを期待したい。

⑧　情報発信・情報提供

要約： SNSと紙媒体の併用、サービスの可視化、デジタル化による手続き簡素化など、広報活動の充実を求める意見が寄せられました。

- 出来れば、紙媒体だけでなく、SNSなどを利用して広く色んな方に伝わるよう発信してほしい。
- どのようなサービスがあるか、どのようなサービスが受けられるかわからない。
- SNSの利用（活用）をもっと進めて下さい。特に市役所に行かなくとも、ネット上で完結できるシステムを作って頂けると助かります。
- 駅に設置している吉川市の広報誌を情報を得る手段として活用しています。やはり紙媒体での周知は個人的に大切だと思っています。（ＨＰでは便利ではあるが網羅的に把握をしずらいです）

⑨　交通・移動支援

要約：免許返納後のバス・タクシー等の移動手段の確保と、安全に通行できる歩道インフラの整備を望む意見が多く寄せられました。

- 運転免許証を返納しましたが、駅までは歩いて20分かかります。外出したくても思うように出掛けられません。公共交通を充実して欲しいと思います。道路などもスムーズに歩けるようデコボコをなくして欲しい。
- 吉川市の南部地域では、メートー観光のバスが土日祭日休便となっており、タクシーの利用も金銭的負担、対応台数の過少から不便を求している。コミュニティバスの復活を希望します。
- 自転車専用道路が狭く、自転車で通るときも自動車で通る時も危険で、特に高齢者にとっては交通事故のリスクが高まる。そのため、広い歩道を自転車用と歩行者用に分けてほしい。
- 病院もスーパーもない田舎、免許返納した今では買い物、通院している私にとっては家族に休みをとって連れていってもらっています。タクシーを利用といっても来てくれるか？心配。
- 歩道の凸凹でベビーカー、車いす、シルバーカーが通れず車道を通っている状況を整備し安全な状態にしてほしい。

自由記述の主な意見

⑩　行政、地域福祉全般への要望

要約：予算の重点配分、地域間格差の是正、市民の小さな声を拾い上げる柔軟な行政運営が期待する意見が寄せられました。

- 知識がないので何も言えませんが、当事者の意見をしっかりと聞いて声が大きい人の意見ではなく小さな声に気づける地域だと人は耳を傾けると思います。
- あったら良いサービスは見直し、なくてはならないサービスに力を入れてください。限られた財源を如何に有効に使うかが問われています。
- それぞれの需要を調査した上で、配分して欲しい。
- 福祉支援を受けるのに手続きが多い。書類が多い。面倒に感じるものが多くあきらめてしまう。もっと簡単に気軽に利用できるようにシステムを変えるとよい。
- 美南地区への図書館の開設学校給食の充実と無償化。

⑪　その他

要約：騒音、害鳥、水害対策、温浴施設の設置、マナー向上など、日々の生活の質に関わる環境改善を求める意見が寄せられました。

- 深夜のバイクがうるさく、睡眠の妨げになっています。
- 駅の鳩のフンが少し解消されたように感じます、ありがとうございます。
- 水害が起きたらと思うと低い土地が多いので不安。
- 警察署を市中央部に移転してほしい。
- 越谷市のように高齢者から子どもまで安価に利用できる温浴施設のようなものがあればいいなと思った。イベントなども開催して憩いの場になるといい。
- 市民交流の場がオアシスや中央公民館以外にも常設の建物をして増やしてほしい。八坂祭りやジャズナイト以外にも子どもと大人が楽しめるイベント企画していただきたい。

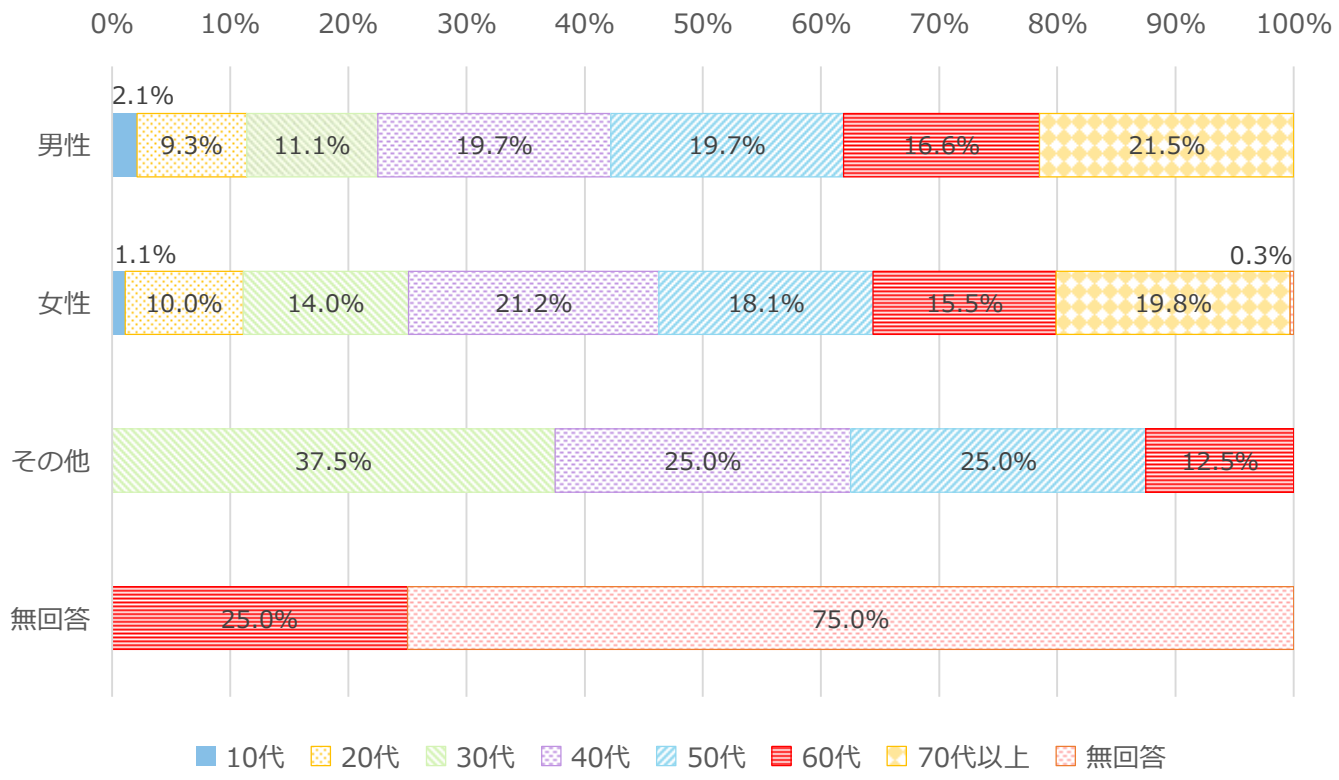
（７）クロス集計

クロス集計　性別×年齢

クロス集計結果

	男性		女性		その他		無回答	
	人	構成比	人	構成比	人	構成比	人	構成比
１０代	6	2.1%	4	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
２０代	27	9.3%	35	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
３０代	32	11.1%	49	14.0%	3	37.5%	0	0.0%
４０代	57	19.7%	74	21.2%	2	25.0%	0	0.0%
５０代	57	19.7%	63	18.1%	2	25.0%	0	0.0%
６０代	48	16.6%	54	15.5%	1	12.5%	1	25.0%
７０代以上	62	21.5%	69	19.8%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	3	75.0%

クロス集計結果②



クロス集計　K6分析×相談へのためらい

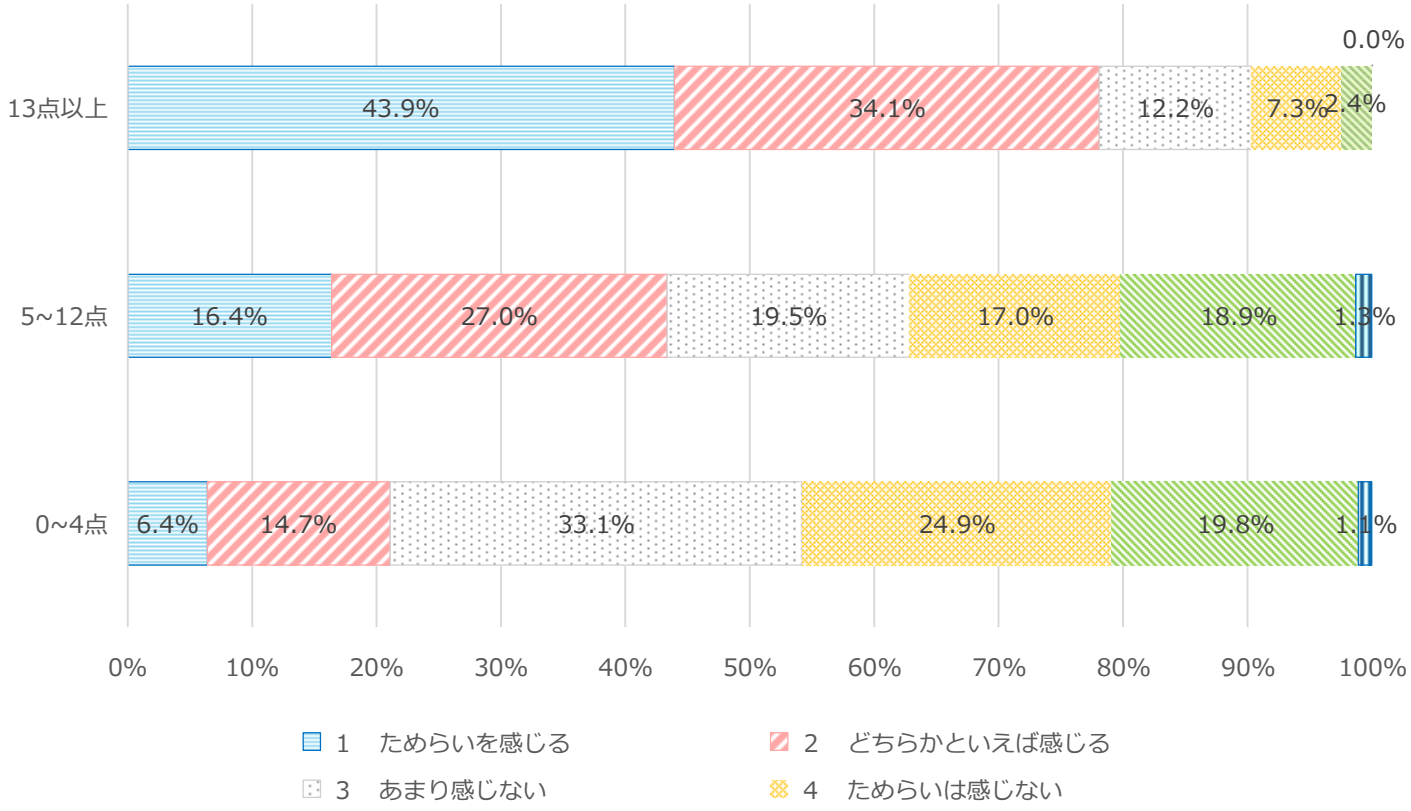
考察

心理的ストレスが高い層ほど、相談へのためらいを感じる割合が高くなる傾向がみられます。一方で、ストレスが低い層では「あまり感じない」「ためらいは感じない」があわせて過半数を占めており、ストレスの程度によって相談に対する意識に違いがみられます。

クロス集計結果①

	0~4点 (n=450)		5~12点 (n=159)		13点以上 (n=41)	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　ためらいを感じる	29	6.4%	26	16.4%	18	43.9%
2　どちらかといえば感じる	66	14.7%	43	27.0%	14	34.1%
3　あまり感じない	149	33.1%	31	19.5%	5	12.2%
4　ためらいは感じない	112	24.9%	27	17.0%	3	7.3%
5　どちらともいえない	89	19.8%	30	18.9%	1	2.4%
99　無回答	5	1.1%	2	1.3%	0	0.0%

単純集計結果②



クロス集計　年齢×情報の入手手段

考察

40代以上では「広報よしかわ」や「市のホームページ」から情報を取得している割合が比較的高く、年代によって利用する情報媒体に違いがみられる。特に70代以上では広報紙を情報源とする割合が高く、紙媒体による情報発信が引き続き重要であることがうかがえる。

クロス集計結果

	10代 (n=10)		20代 (n=62)		30代 (n=84)		40代 (n=133)		50代 (n=122)		60代 (n=104)		70代以上 (n=131)		無回答 (n=4)	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 広報よしかわ、広報よしかわ（マチイロ）	2	20.0%	12	19.4%	33	39.3%	78	58.6%	77	63.1%	70	53.4%	108	82.4%	3	75.0%
2 市のホーページ	2	20.0%	20	32.3%	43	51.2%	78	58.6%	63	51.6%	43	32.8%	29	22.1%	3	75.0%
3 市公式SNS（LINE、Youtube、X(旧Twitter））	0	0.0%	10	16.1%	13	15.5%	21	15.8%	11	9.0%	8	6.1%	7	5.3%	0	0.0%
4 公共施設の掲示やパンフレット、回覧	3	30.0%	7	11.3%	7	8.3%	21	15.8%	17	13.9%	14	10.7%	30	22.9%	1	25.0%
5 福祉事業所や医療機関等の専門機関	0	0.0%	1	1.6%	3	3.6%	3	2.3%	9	7.4%	2	1.5%	4	3.1%	0	0.0%
6 社会福祉協議会の広報紙やホームページ	0	0.0%	2	3.2%	4	4.8%	7	5.3%	1	0.8%	15	11.5%	16	12.2%	0	0.0%
7友人・知人	2	20.0%	10	16.1%	20	23.8%	25	18.8%	18	14.8%	17	13.0%	36	27.5%	1	25.0%
8 新聞・テレビ・インターネット、SNS等	3	30.0%	12	19.4%	24	28.6%	25	18.8%	19	15.6%	23	17.6%	29	22.1%	1	25.0%
9 その他（自由記載）	0	0.0%	6	9.7%	5	6.0%	2	1.5%	2	1.6%	4	3.1%	3	2.3%	0	0.0%